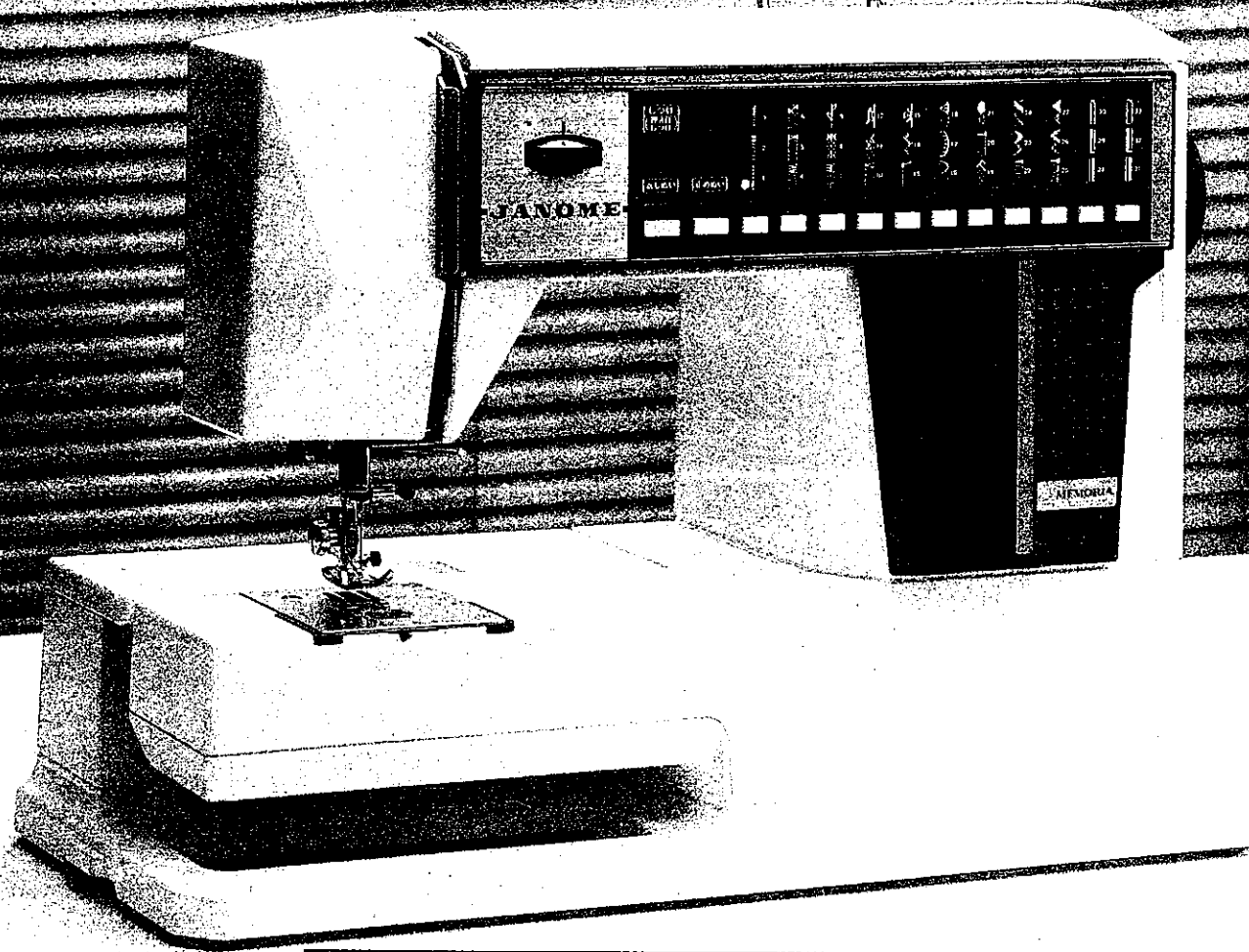


5002型 使い方の手びき



コンピューターマシン

多重記憶
ジャノメメモリア
5002

1. 準備

- 各部のなまえとはたらき……2～3
- 早見板と押えポケット……4

2. 使い方の基本

- 標準付属品……5
- 押え圧ダイヤルの使い方……5
- 押えのあげ方、さげ方……6
- 押えのはずし方、つけ方……6
- 押えホルダーのはずし方、つけ方……7
- 電源のつなぎ方……7
- 速さの調節のし方……8
- 照明ランプ……8
- 布と糸と針の関係……9
- 針のはずし方、つけ方……9
- 下糸の巻き方……10
- ボビンの出し方、入れ方……11
- 上糸の掛け方……12
- 糸通しの使い方……13
- 下糸の引きあげ方……14
- 糸調子の出し方……15

3. 基本縫い

- 直線縫い……16～18
- ジグザグ縫い……19

4. 実用縫い

- 裁ち目かがり……20～21
- ストレッチ(伸縮)縫い……22
- ボタン穴かがり(ボタンホール) 23～25
- 芯入りボタン穴かがり……25～27
- くけ縫い(まつり縫い)……28
- ファスナーつけ……29～30
- コンシールファスナーつけ……31～32

- 三つ巻き縫い……32～33
- 三重縫い……34
- しつけ……34～35
- 筒縫い……36

5. 応用縫い

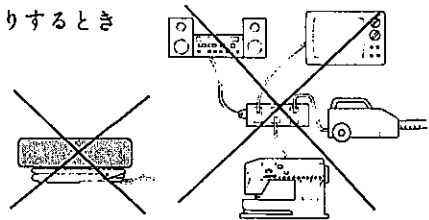
- 連続自動模様縫い……37
- プログラム縫い……38～39
- 2本針縫い……40
- ピンタック……41
- スカラップ……42
- キルティング……43
- アップリケ……43
- スモッキング……44
- シェルタック……44
- パッチワーク……45
- レースつけ……45
- ファゴティング……46
- カットワーク……46
- コーディング……47
- ギャザーよせ……48
- 貝形ふちかがり(ブランケットステッチ)……48
- ドロンワーク……49
- フリンジ縫い……50
- 糸を使ったフリンジ……51

6. 手入れと調整

- 外装の手入れ……52
- かまの掃除……52
- かまと送り歯の手入れ……53
- ミシンの調子が悪いときの直し方……54～56

★より安全のために……

- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、天びん、針などに手を触れないでください。
- ②つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
■使用後 ■ミシンのそばをはなれるとき
■部品をつけたり、はずしたりするとき
■ミシンの手入れをするとき
- ③コントローラーの上には、物をのせないでください。
- ④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。



★ご使用前に……

- ①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。
- ②ミシンのセットや、押え、針を交換するときには、早見板やこの《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。
- ③ミシンをセットしたら、実際に縫うものと同じ布や糸で試し縫いをしてみましょう。

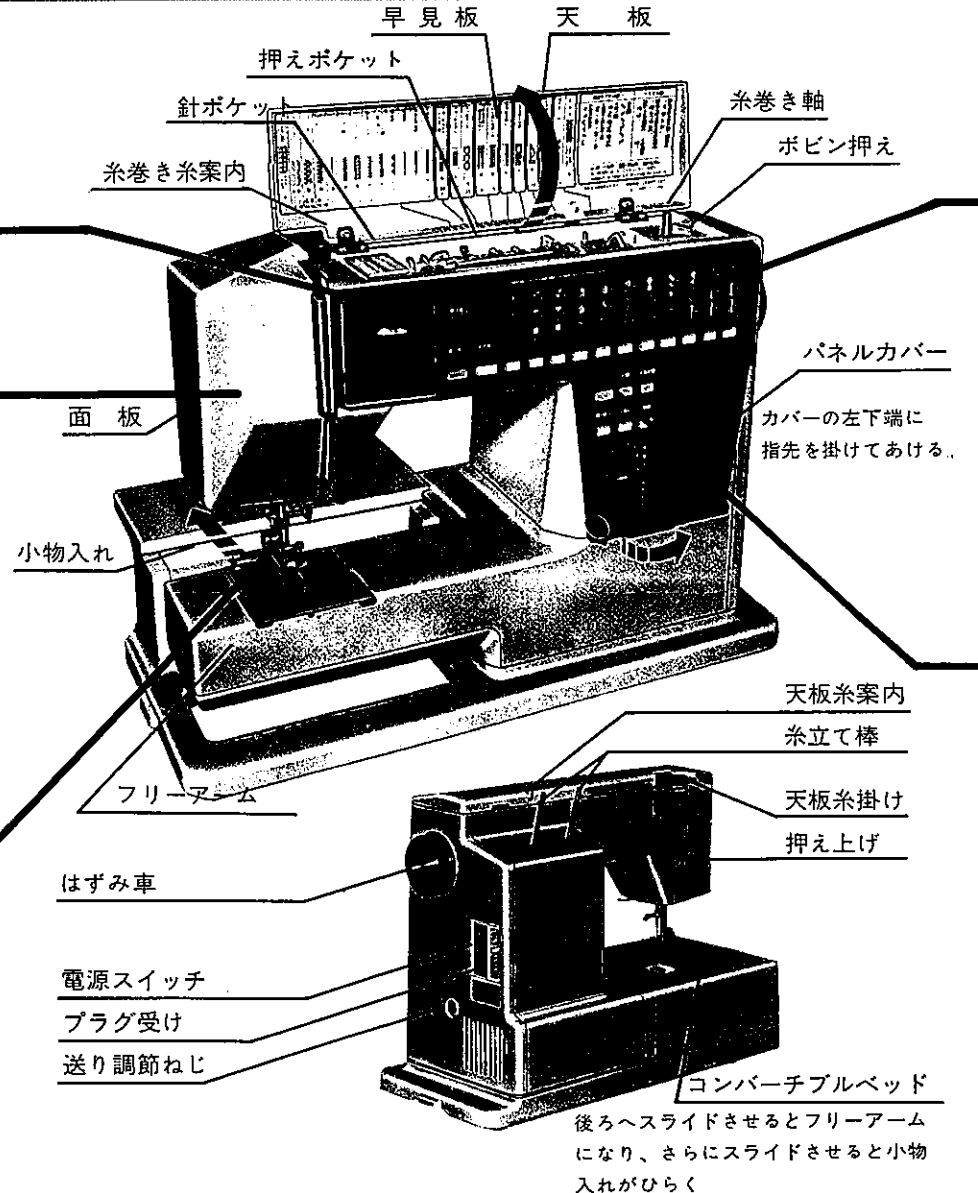
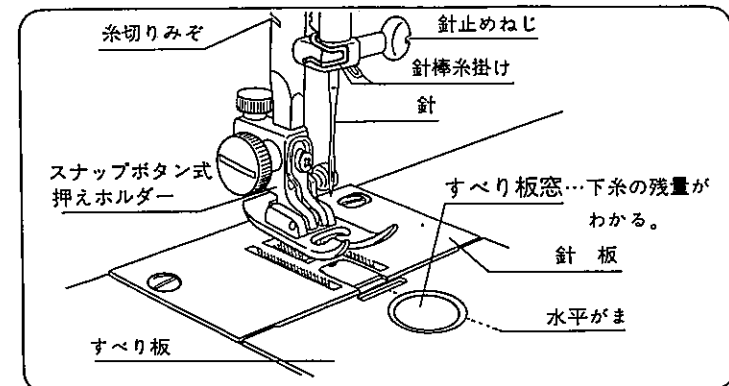
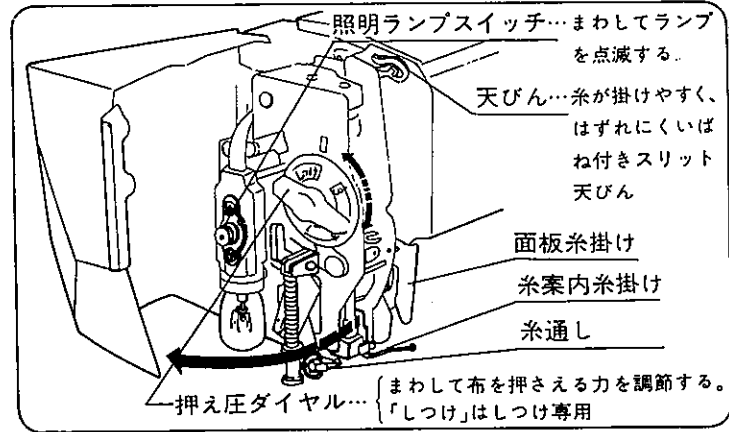
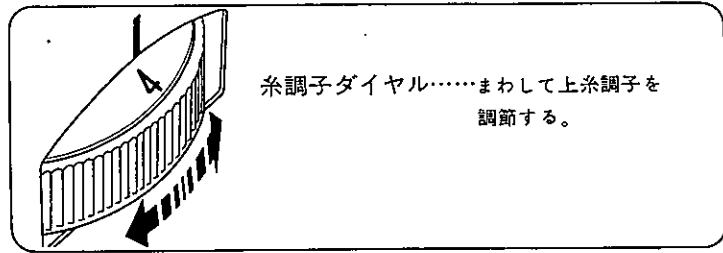
★いつまでもご愛用いただくために……

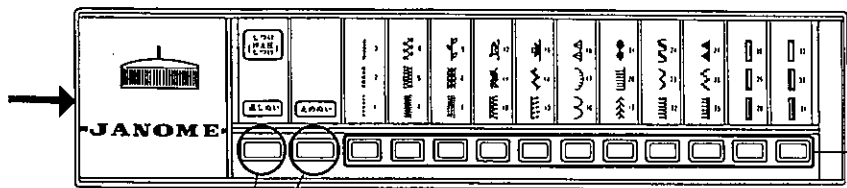
- ①このミシンは、注油の必要がありません。
- ②長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。
- ③湿気の多いところはさけてください。
- ④落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

●修理、調整についてのご案内

万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(54～56ページ)により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

1 準備





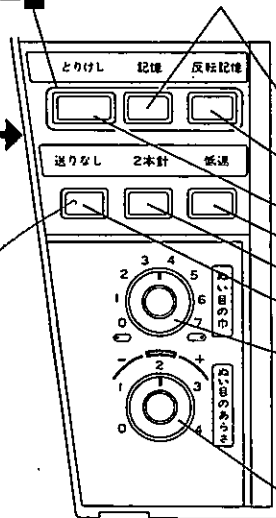
■模様選択キー……キーを押して模様を選ぶ。選んだ模様・縫っている模様は、赤いシグナルで示される。

※選んだ模様に最も適した縫い目のあかさ、縫い目の巾、縫いの速さが、瞬時に自動セットされます。

■止めぬいキー……押してからコントローラーを踏むと、数針止め縫いをして止まる。

■返しぬいキー……押している間は、返し縫いをする。

プログラムキー



■記憶キー……キーを押して、選んだ模様を記憶させる。

■反転記憶キー……キーを押して、選んだ模様を左右反対に記憶させる。

■とりけしキー……キーを押して、記憶と反転記憶をとり消す。

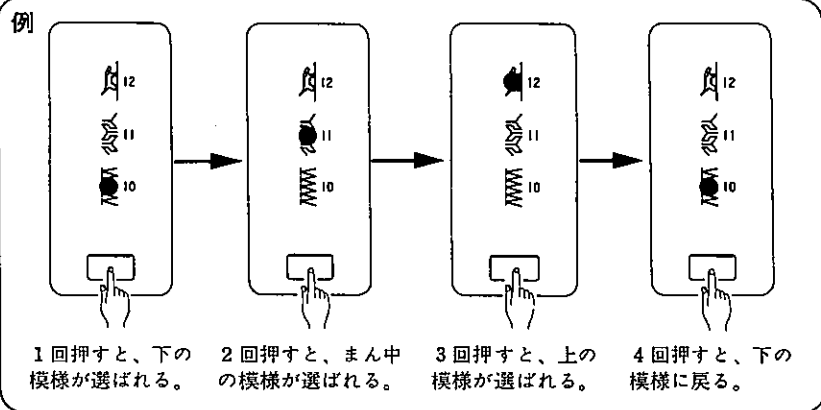
■低速キー……キーを押して、縫いの速さを制限する。

■2本針キー……キーを押して、縫い目の巾を2本針用に制限する。

■送りなしキー……キーを押して、送り歯をさげる。

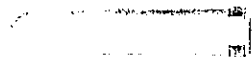
■振巾マニュアル……つまみをまわして、縫い目の巾を選び押す。赤いシグナルが選んだ巾で縫うことを示す。

■送りマニュアル……つまみをまわして、縫い目のあかさを選び押す。赤いシグナルが選んだあかさで縫うことを示す。

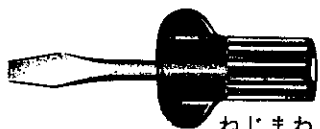


※低速・2本針・送りなしは、赤いシグナルが作動を示します。縫いおわったら、もう1度キーを押して、自動セットに戻しておいてください。

※振巾マニュアル・送りマニュアルは、つまみをもう1度押すと、自動セットの縫い目の巾・あかさにもどります。



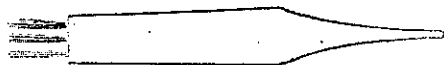
目ほとき



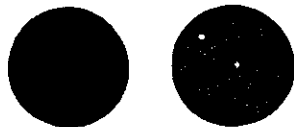
ねじまわし(大)



ねじまわし(小)



ミシンブラシ



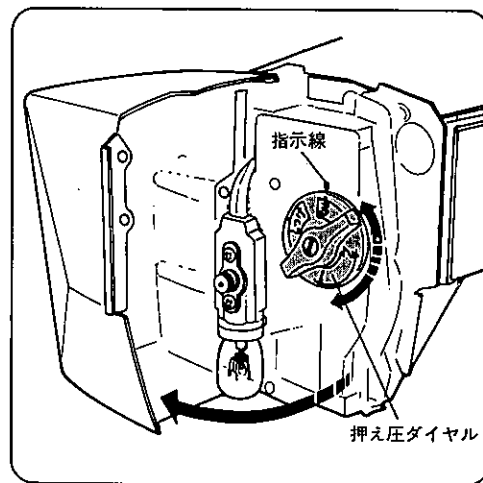
糸立て棒フェルト

※標準付属品は、コンバーチブルベッドの小物入れ(2ページ参照)にはっています。

通常はダイヤルの数字「3」で縫い、下記のような場合に調節します。

《押え圧をかえる場合》

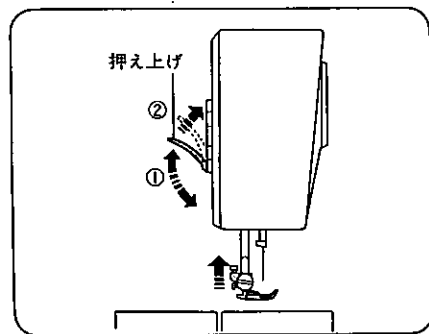
- アップリケ、カットワーク、ドロンワークなどのとき、ダイヤル数字「2」
- うすい布や化繊地、伸縮性のある布などで、縫い縮みしたり、そり返ってうまく縫えないとき、ダイヤル数字「1」
- しつけのとき、ダイヤルの表示「しつけ」



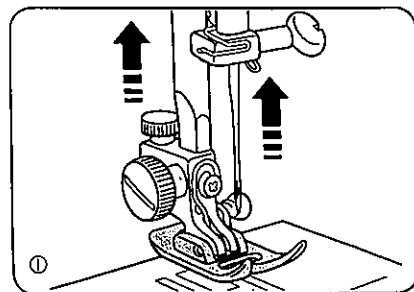
《押え圧のかえ方》

ダイヤルをまわし、目盛りと指示線を合わせる。

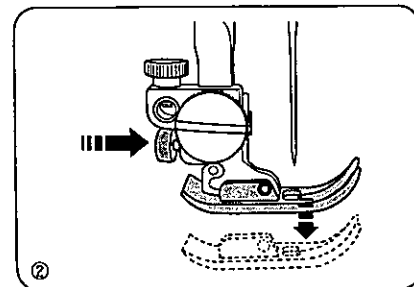
※押え圧ダイヤルを動かしたときは、あとで「3」の位置に戻してください。



- ① 押え上げをあげさげして、押えをあげたり、さげたりする。
- ② 押え上げをあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがる。

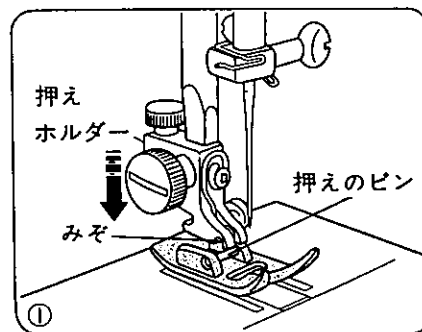


- 《押えのはずし方》
- ① 針と押えをあげる。



- ② 押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずす。

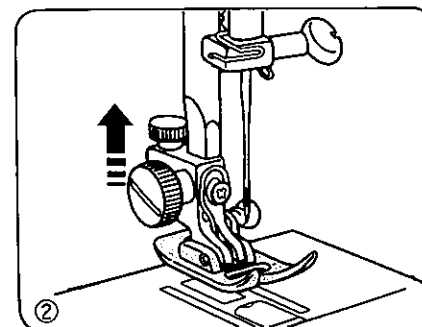
※押えを無理に引いてはささないでください。



《押えのつけ方》

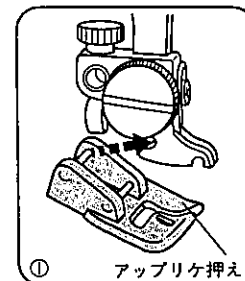
- ① 押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、静かに押え上げをおろす。

※押えをつけるときは、押え圧ダイヤルを「3」に合わせてください。
(5ページ参照)

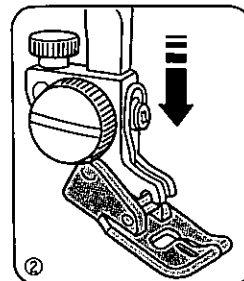


- ② ピンがみぞにはいったら、押え上げをあげる。

《アップリケ押え、ファスナー押えのつけ方》



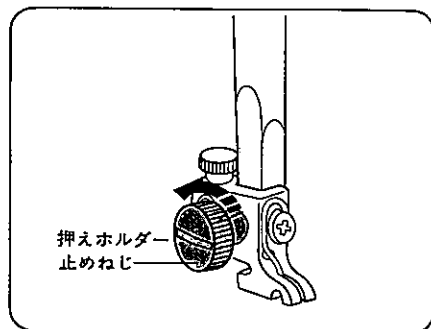
- ① 押えの後方のピンをホルダーの後ろのみぞに入れる。



- ② 押えの前側のピンを押えホルダーのみぞの真下において静かに押え上げをおろす。

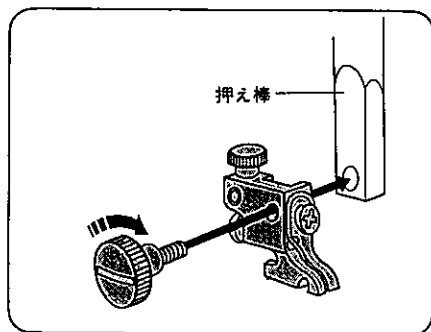
※ファスナー押えも同じ方法でつけます。

別売のアルファベットステッチ、オーバルステッチ、フラワーステッチなどを使用する場合と、かまと送り歯の手入れをする場合を除いては、押えホルダーをはずす必要はありません。



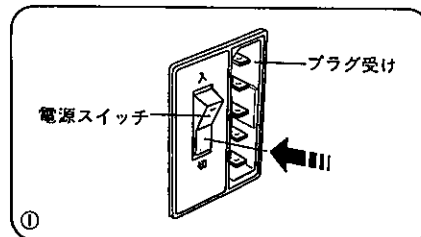
《押えホルダーのはずし方》

押えホルダー止めねじを、ねじまわして左にまわす。

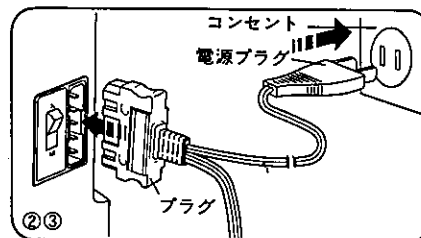


《押えホルダーのつけ方》

押えホルダーの穴と押え棒のねじ穴を合わせ、押えホルダー止めねじをさしこみ、ねじまわして右にまわしてしっかりつける。

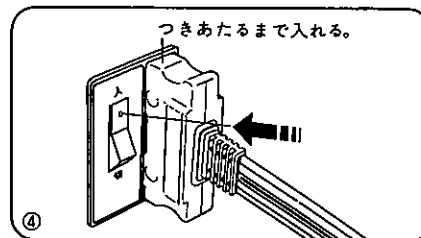


①電源スイッチを「切」にする。



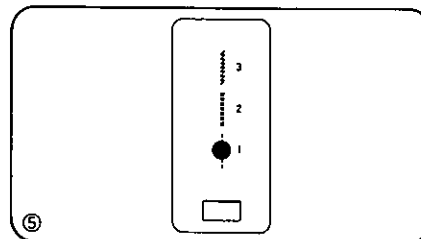
②コントローラーのプラグをミシンのプラグ受けのみぞに合わせてさしこむ。

③電源プラグを、コンセントにさしこむ。



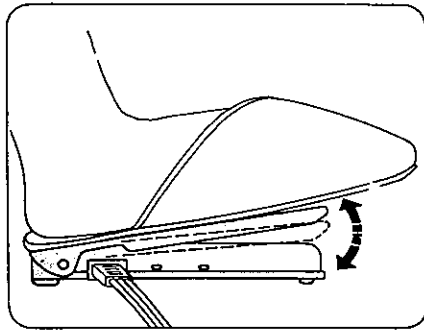
④スイッチを「入」にする。

※ミシンを使用中でも、縫っていないときは、電源スイッチを切ってください。



⑤スイッチを「入」にすると、直線縫いに自動セットされ、模様 1 に赤いシグナルがつく。

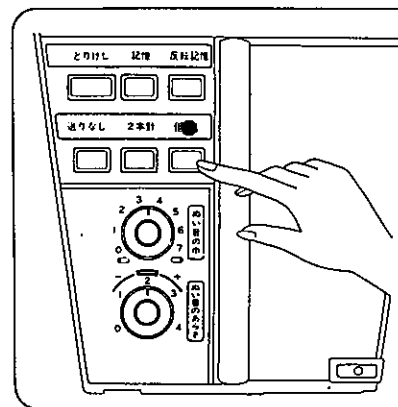
※電源は、一般家庭用(100V 50/60Hz)電源以外の動力用や発電機は、使わないでください。



コントローラーの踏みこみで調節する。

浅く踏みこむ……………おそい
深く踏みこむ……………はやい

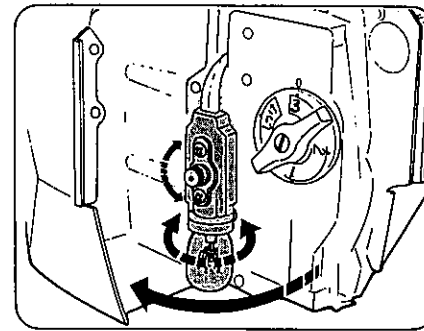
※コントローラーの踏みこみを戻すと、針があがった位置で自動的に止まります。
※押えをあげ、糸を掛けなくてコントローラーを踏み、速さと踏みこみの関係になれてください。



《低速キーの使い方》

低速キーを押すと赤いシグナルが作動を示し、コントローラーの踏みこみが同じでもゆっくりになる。

※縫い終わったらキーをもう1度押して、シグナルを消し、自動セットに戻してください。



《点滅のし方》

面板をひらいて、スイッチつまみをまわす。

《電球のとりかえ方》

はずす時……………左にまわす
つける時……………右にまわす

※安全のためにランプはつけたままにしてください。
※電球のとりかえは、電源プラグを抜いてから行なってください。
※電球(照明用100V-12W)は、ジャノメメシ直営支店で求めください。

《布に適した糸と針の目安》

布		糸	針
うすい布	クレープ、デシン、ボイル、ローン、オーガージー、ジョーゼット	細手絹糸 細手綿糸 (細手化繊糸)	9 番 または 11 番
普通の布	普通もめん、ピケ、サージ、その他一般服地	絹糸50番 綿糸50番～80番 (化繊糸50番～60番)	11 番 または 14 番
厚い布	デニム、ツイード、ギャバジン、コート地	絹糸50番 綿糸40番～50番 (化繊糸40番～50番)	14 番 または 16 番

※一般にうすい布には、ほそい糸とほそい針を、厚い布には、太い糸と太い針を使用します。

この表を目安に糸と針を選び、試し縫いをして確かめてください。

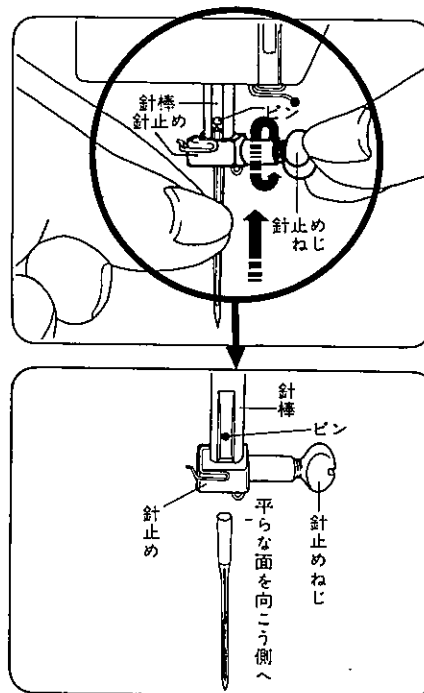
※原則として上糸と下糸は、同じものを使用してください。

※伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)や目とびのしやすい布地などには、ブルー針を使用すると、効果があります。

※しつけ、切りじつけをするときは、ジャノメシン直営支店で販売しているミシン専用の「しつけ糸」を使用してください。

※ごくうすい布は、下に紙をしいて縫ってください。

※細くなめらかな糸を使用する場合は、低速キーを押してください。



- ① 針止めねじを手前にまわしてゆるめ、針をはさず。
- ② 針の柄の平らな面を向こう側に向けて、針止めにさしこむ。
- ③ 奥いっぱいピンにあたるまで入れ、針止めねじをかたくしめる。

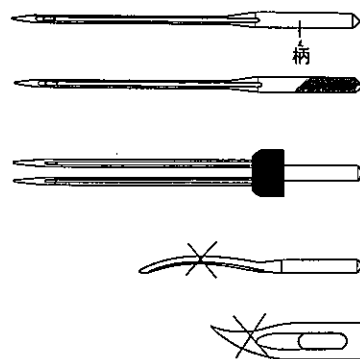
《針の選び方》

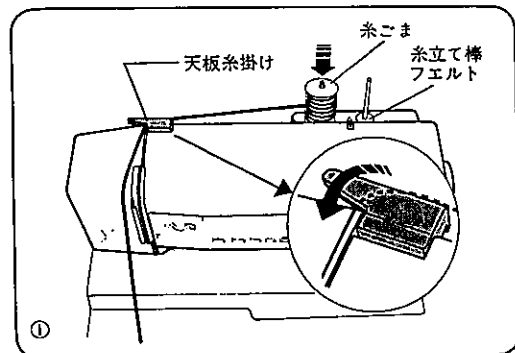
■ 針の太さを示す番号は柄に表示してあり、数字が大きくなれば太くなる。

■ ブルー針は柄の部分青色をしている。

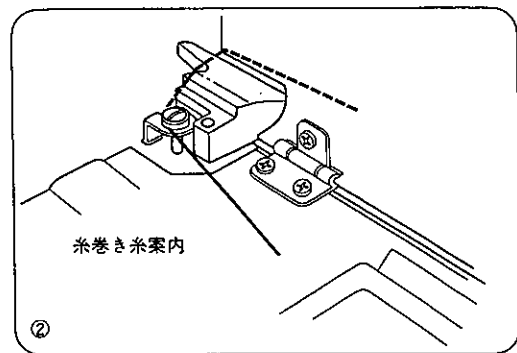
■ 2本針はジャノメ2本針(黒色)を使用する。

※ 全体がまがってしまったものや、針先がつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。



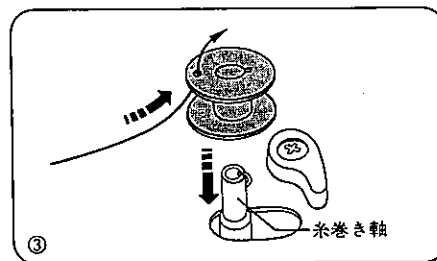


①糸立て棒に付属品の糸立て棒フェルトをさし、糸ごまを入れ、糸を引き出す。引き出した糸を、天板糸掛けに掛ける。

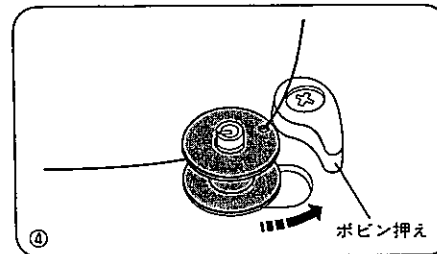


②天板をひらき、糸巻き糸案内に掛ける。

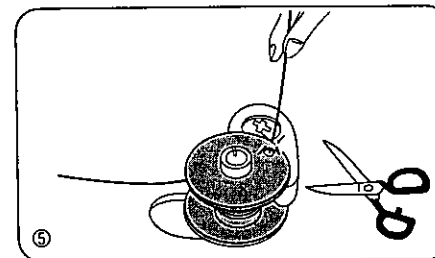
※①～②まで、糸ごまを押さえつけて掛けてください。



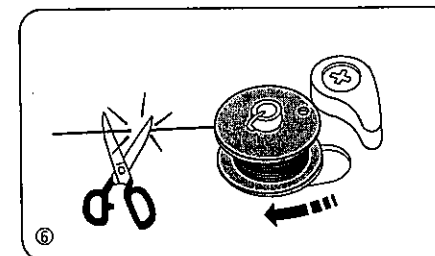
③糸の先をボビンのつばの穴に内側から通す。



④ボビンを糸巻き軸にさしこんでボビン押えの方に押す。



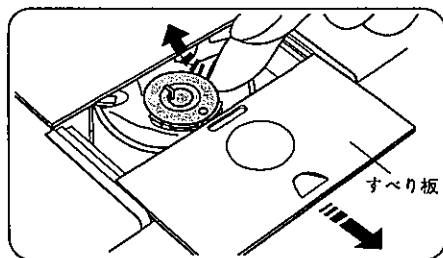
⑤糸の端を指でつまんだままコントローラーを踏む。ボビンに糸が3重くらいに巻きついたら、いったん止めて穴のきわで糸を切る。



⑥巻きおわったら、ボビンは自動的に止まる。ボビンを戻して、糸を切る。

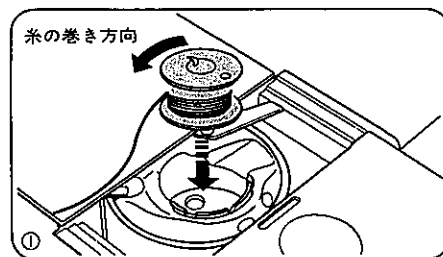
※糸巻き軸の移動は、必ずミシンを止めてから行なってください。

※スパン糸、テトロンなど伸縮性のある糸を使うときは、糸を正しく掛け、ボビンいっぱいには巻かないでください。



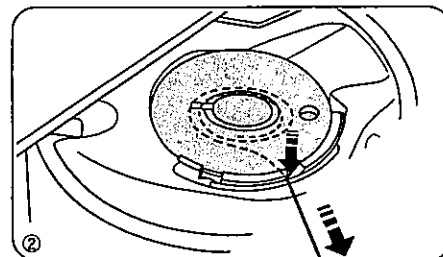
《ボビンの出し方》

すべり板を静かに止まるところまであげ、ボビンを取り出す。

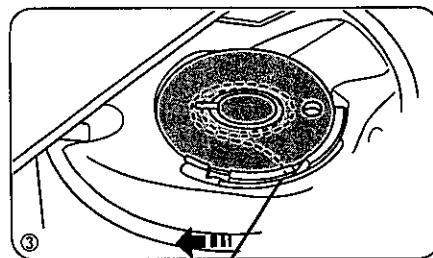


《ボビンの入れ方》

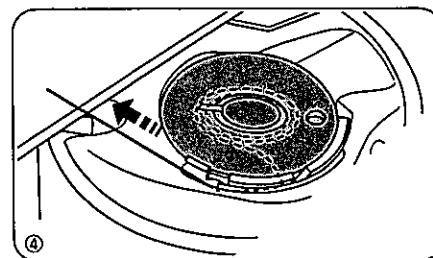
①糸の端を矢印の方向にしてボビンを入れる。



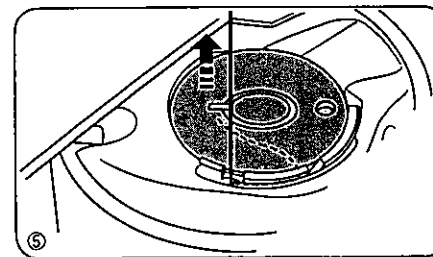
②糸の端を左指で引きながら、糸を右指先で案内し、内がまの手前のみぞに掛ける。



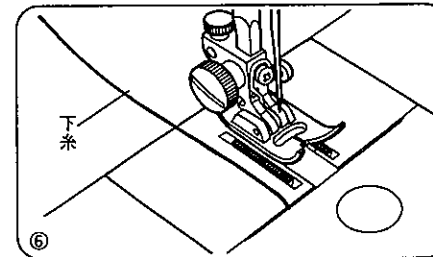
③糸を左へ引くと、みぞの外側とばねの間に糸が入る。



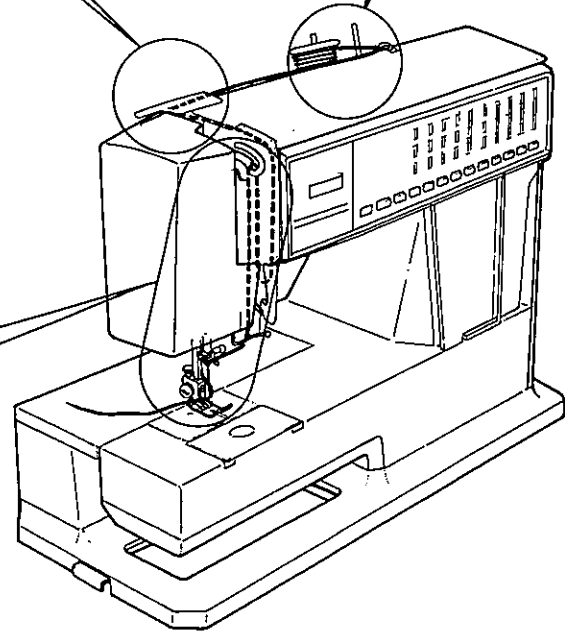
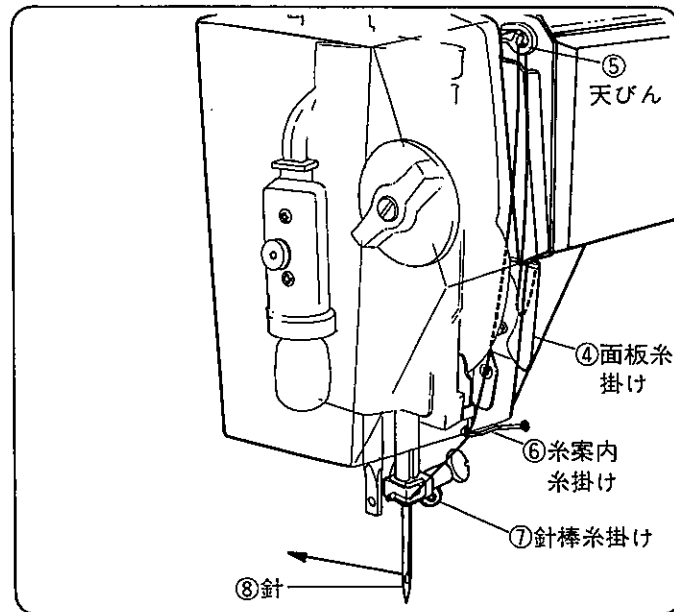
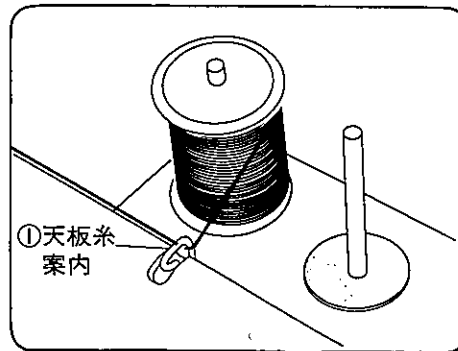
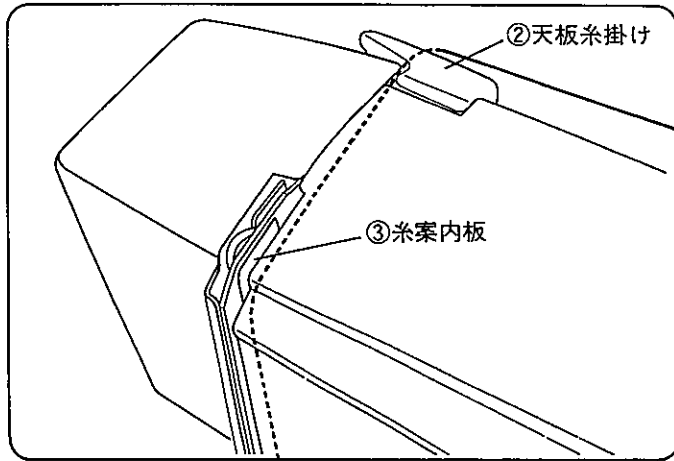
④ボビンがまわるまで、糸を向こう側に引くと、左側のみぞのところへ出る。



⑤糸を左側のみぞに掛けるように向こう側に出す。



⑥糸を15cmほど引き出し、すべり板をしめる。

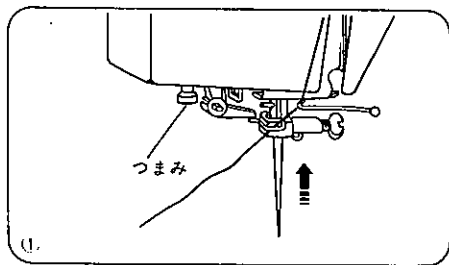


押えをあげ、天びんが最上部にあるのを確かめて、糸ごまを押えながら正しく糸を掛けてください。

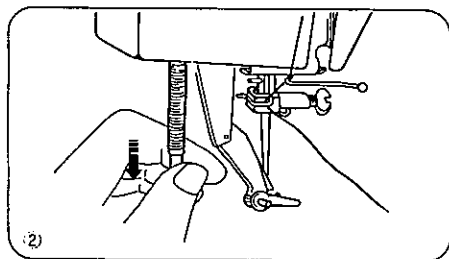
- ①天板糸案内に糸ごまから糸を引き出して掛ける。
- ②天板糸掛けに掛ける。
- ③糸案内板のところまで下におろす。
- ④面板糸掛けに右から下にまわして左へ掛け、上に引きあげる。
- ⑤天びんへは、右から後ろにまわして左へ出し、手前に充分引く。
- ⑥糸案内糸掛けに右から掛ける。
- ⑦針棒糸掛けに左から掛ける。
- ⑧糸通しを使って、針に糸を通す。(通し方は、13ページ参照)

※糸通しを使わないときは、針の手前から向こう側に手で糸を通してください。

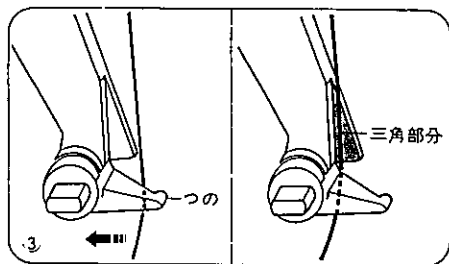
※糸ごまの下に、付属品の糸立て棒フェルトをしいてください。



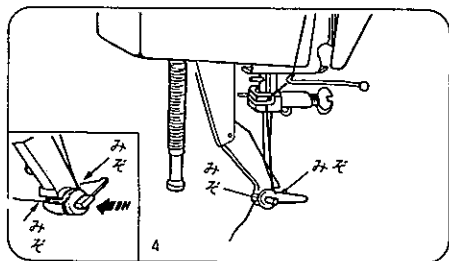
①上糸を15cmほど引き出し、押えをおろし、はずみ車を手前にまわして、針を最上部にあげる。



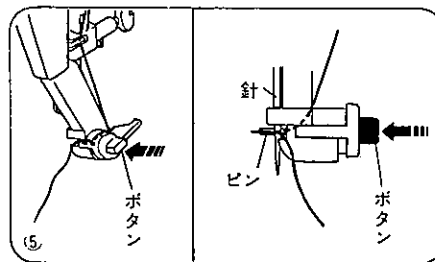
②つまみを、いっぱいまで静かに引きさげる。



③糸を、つのの向こう側に掛け、左にすべらせて、三角部分の手前を通す。

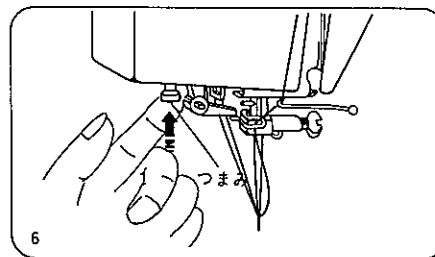


④左手前に引きながら、裏側のみぞに入れて、端を手前にたらす。

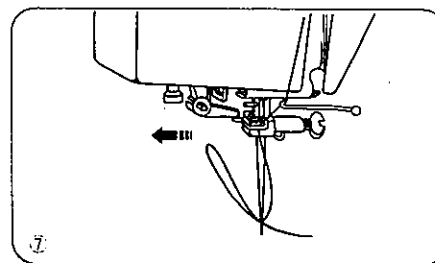


⑤ボタンを静かに押して、針穴に糸が「輪」になって通ったら、指をゆっくりとはなす。

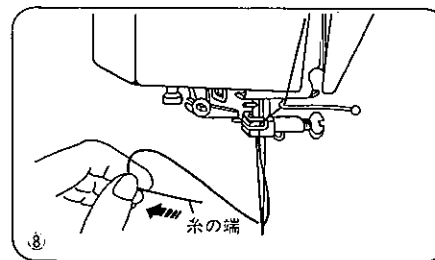
※ピンが針にあたって、うまく針穴に入っていないときには、無理にボタンを押さないでください。



⑥つまみを静かに押しあげ、輪を引きあげる。

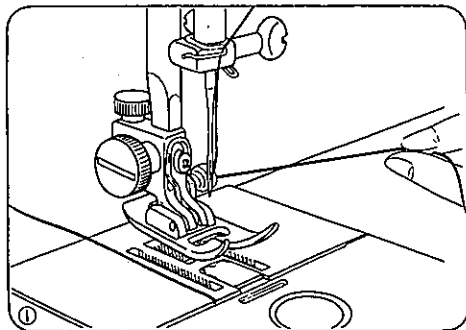


⑦糸の輪を左横に引いて、はずす。

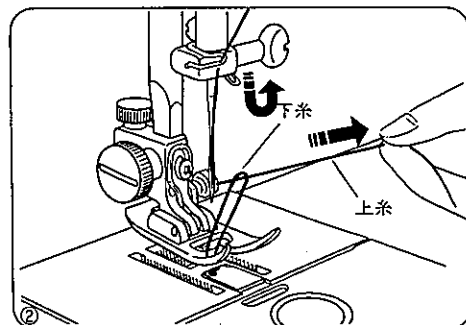


⑧糸の端を針穴から引き出す。

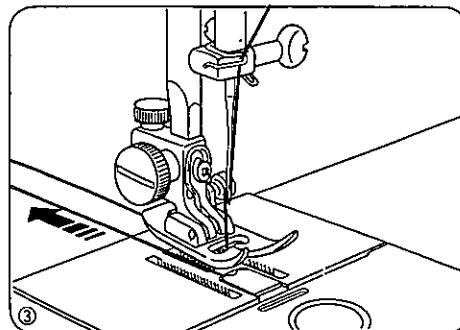
※針は、11番、14番、16番と付属品のブルー針、糸は、50番、60番、80番、100番をお使いください。



①左手で上糸の端をつまんで、
ややゆるめて持つ。

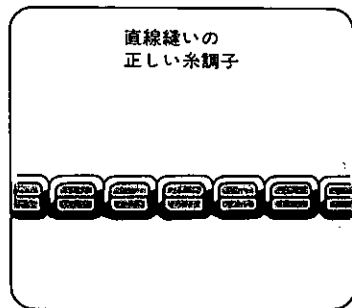


②右手ではずみ車を手前にまわし、針をいったんさげて、あげる。
天びんが最上部にきたら、上糸を軽く引くと、下糸が「輪」
になって出てくる。

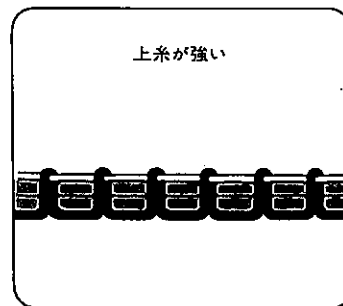


③出てきた下糸と上糸を、押え
の下から向こう側へ、15cmほ
ど引き出してそろえておく。

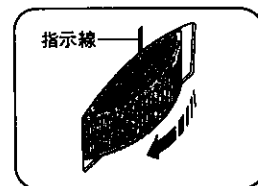
糸調子は、糸調子ダイヤルで、上糸調子を強めたり、弱めたりして調節します。



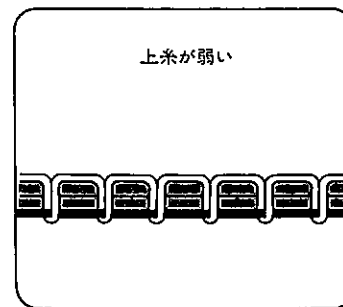
上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわる。



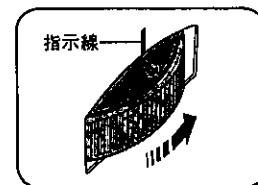
布の上に下糸が出る。



上糸調子を弱める。



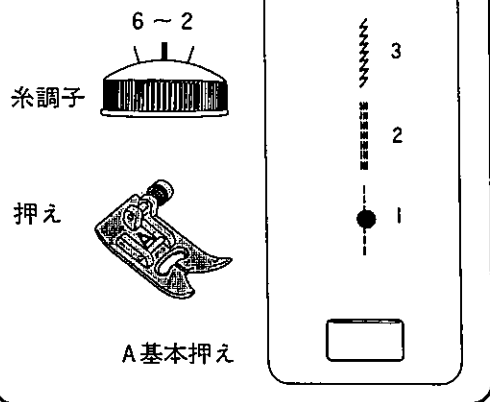
布の下に上糸が出る。



上糸調子を強める。

※上糸調子は、各縫いのセットのし方に、その目安を示してあります。

《セットの仕方》

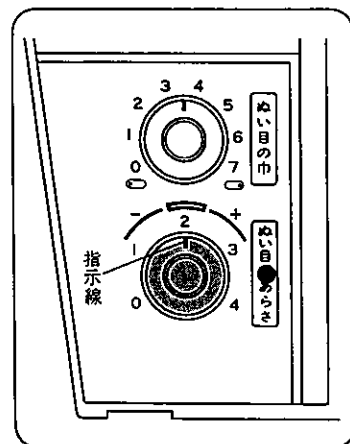


電源スイッチを入れると、直線縫いにセットされる。他の模様から直線縫いにかえるときは、模様選択キーを押す。

※直線縫いにセットされると、針穴はとじ、直線専用の小さな針穴になります。とじないときは、手ではずみ車をまわして針をあげてください。

※自動セットの縫い目のあさは、普通家庭で縫われる厚手の布から、うす手の布までに合わせてありますので、特にかえる必要はありません。

《特に自動セットの縫い目のあさをかえたいとき》

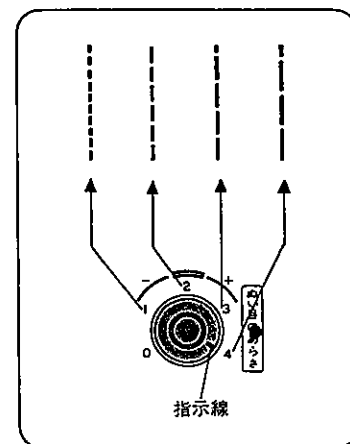


①送りマニュアルのつまみをまわして、指示線を目盛りに合わせて、押す。赤いシグナルがついたかを確認する。


②つまみをもう1度押すと、自動セットの縫い目のあさに戻る。

※送りマニュアルは、作動させていても、模様選択キーを押すと、とり消され、自動セットに戻ります。

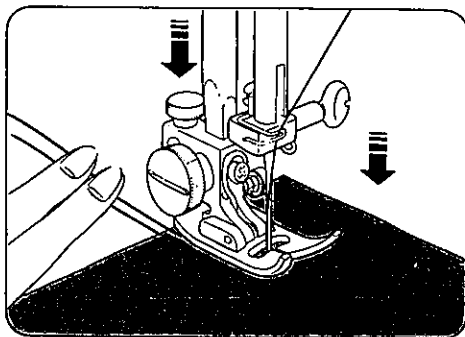
■あわせる数字と縫い目のあさの関係



※目盛りを大きくすると、縫い目のあさはあらかくなります。

※はボタン穴かがりの縫い目のあさの調節範囲を示します。

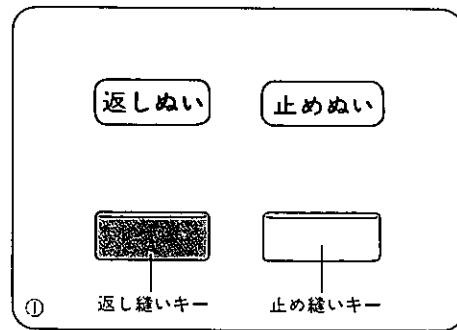
※返し縫いの縫い目のあさは、0.25cm以上にはなりません。



《縫いはじめ》

- ①上糸・下糸を押えの向こう側へ、15cmほど引き出し、糸のたるみをなくす。
- ②上糸・下糸を左手で押さえて、はずみ車を手前にまわし、縫いはじめの位置に針をさす。
- ③押えをおろし、コントローラーを軽く踏み、ゆっくり縫いはじめる。

※縫いはじめの部分止め縫いするときは縫いはじめに返し縫いボタンを押してください。
 ※止め縫いキー、記憶キー、模様キーの順にキーを押して止め縫いスタートをする方法もあります。

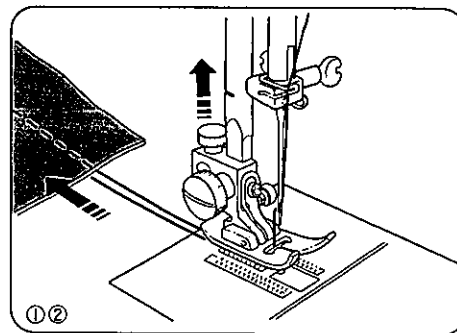


《縫いおわり》

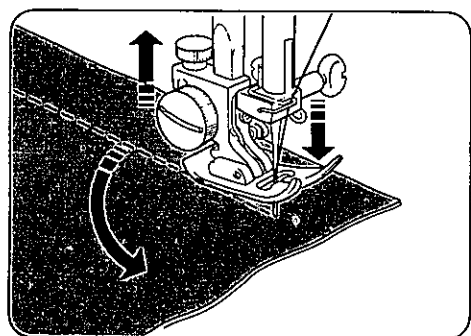
- ①返し縫いキーを押し、数針止め縫いをする。

※止め縫いキーを押して、止め縫いする方法もあります。

※ミシンを止めてからキーを押してコントローラーを踏んでください。

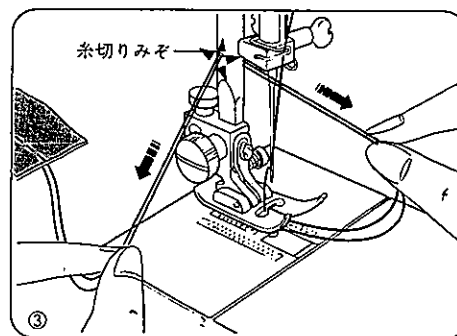


- ②押えをあげて、布を向こう側に引き出す。

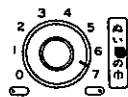
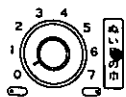


《縫い方向をかえるとき》

- ①ミシンを止めると、針は上にあがって止まる。
- ②はずみ車を手前にまわし、針を布にさして押えをあげ、針を軸にして布をまわす。

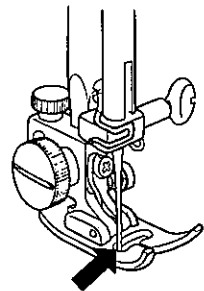


- ③押え棒の糸切りみぞで糸を切る。

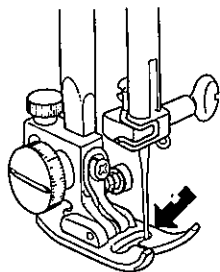


《直線縫いの針位置のかえ方》

ミシンを直線縫いにセットすると、針の落ちる位置をかえることができます。



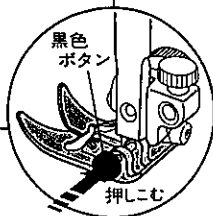
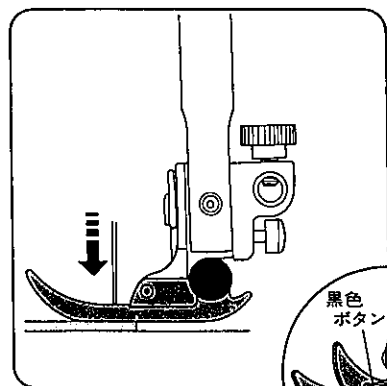
針落ち左



針落ち右

振巾マニュアルをまわして針位置を選び、押す。
赤いシグナルがついたか確かめる。

※三重縫い(模様 ||| 2)でも、針位置がかえられます。



黒色ボタン

押しこむ

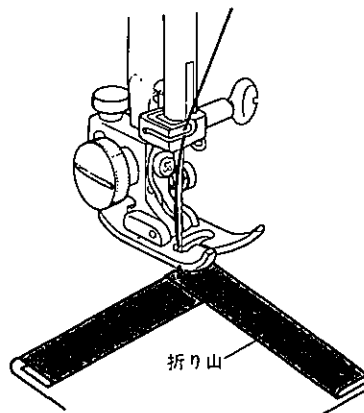
《厚手の布の縫いはじめ》

- ①縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを、右手で押しあげるようにして、押しこむ。
- ②ボタンを押ししたまま、左手で押えをおろす。
- ③ボタンから手をはなし、縫いはじめる。

※縫い目のあらかさは、あらめにしてください。

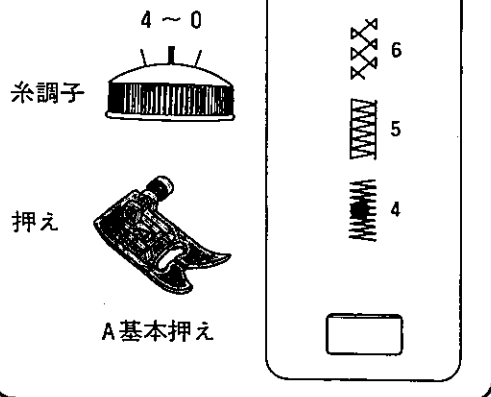
《かどの縫いはじめ》

折り山に合わせて、針位置をかえる。



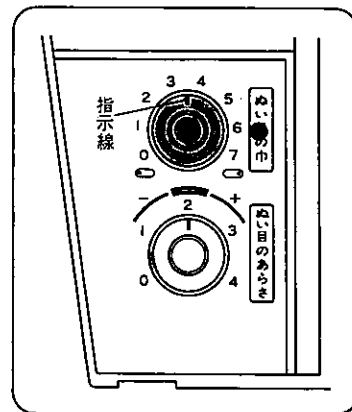
折り山

《セットの仕方》



※選んだ模様に適した縫い目の巾、縫い目のあらしに自動セットされますので、特にかえる必要はありません。

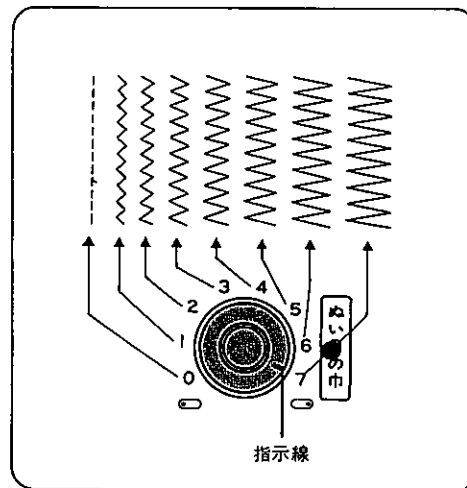
《特に自動セットの縫い目の巾をかえたいとき》



- ①振巾マニュアルのつまみをまわして、指示線を目盛りに合わせて、押す。
赤いシグナルがついたかを確認する。
- ②つまみをもう1度押すと、自動セットの縫い目の巾に戻る。

※振巾マニュアルは、作動させていても、模様選択キーを押すと、とり消され、自動セットの縫い目の巾に戻ります。

■あわせる数字と縫い目の巾の関係

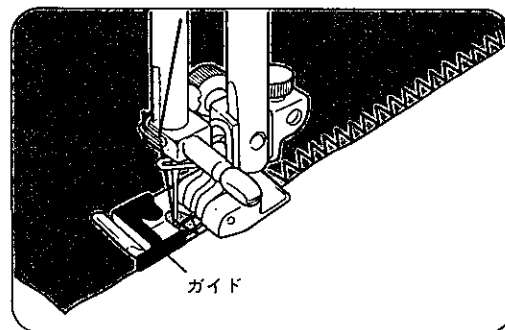
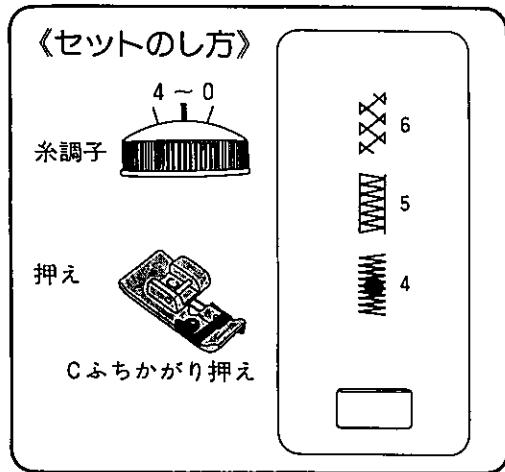


- ※目盛りの数字を大きくすると、縫い目の巾が大きくなります。
- ※縫い目のあらしのかえ方は、16ページにあります。

裁ち目かがりは、布端のほつれ止めとして、特に肩・袖下・脇・見返し・股上・股下などのほつれ止めに使います。
 かがり方は、ジグザグ縫い裁ち目かがり・かがり縫いステッチ・トリコット縫い裁ち目かがり・ニットステッチがあります。

☆ジグザグ縫い裁ち目かがり

裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。

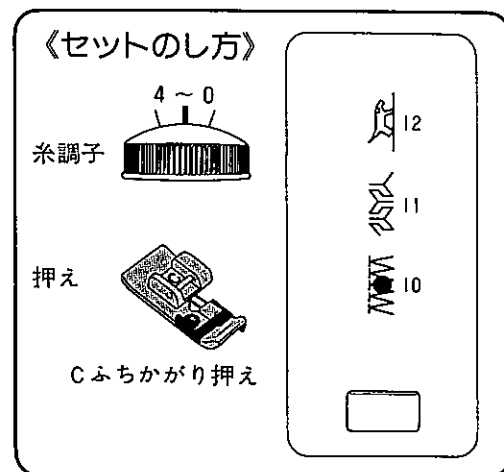


《縫い方》

布端をふちかがり押えのガイドにあてて縫う。

☆かがり縫いステッチ

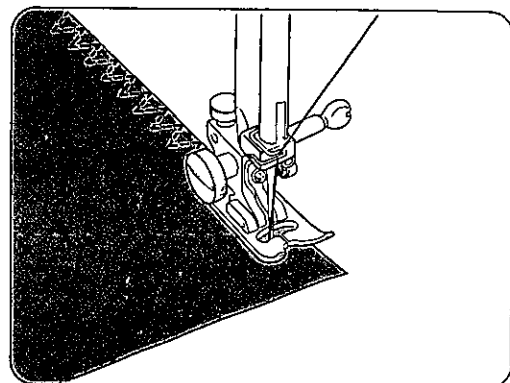
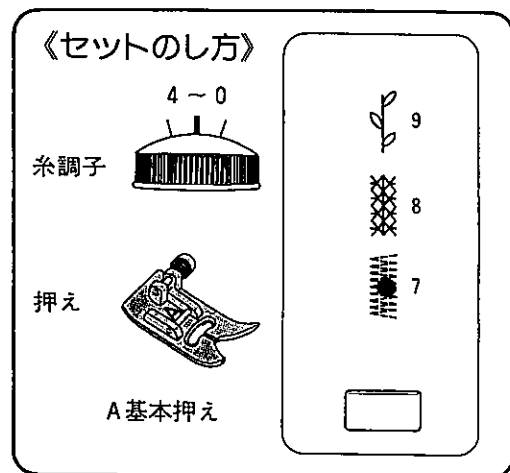
かがり縫いと地縫いが、同時にできるので、ほつれやすい布や、縫いしろを割らなくていいものの縫い合わせに、適しています。



《縫い方》

ジグザグ縫い裁ち目かがりと同じ。

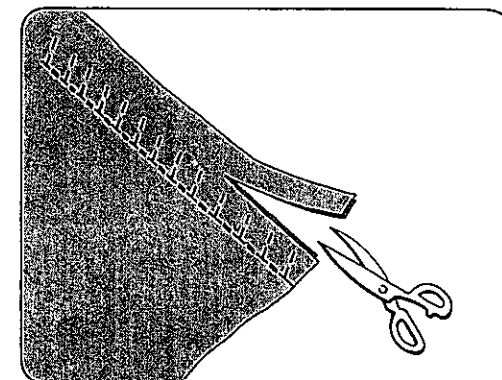
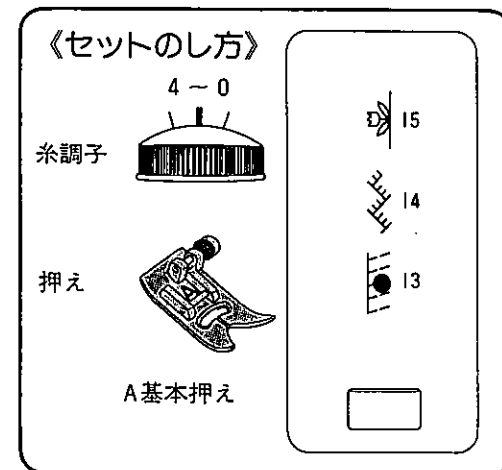
ほつれやすい布や、伸縮性のある布のほつれ止め、布端の返り防止に利用します。



《縫い方》

布端を、押えの右端より、やや内側にし、織り糸を1~2本残すように縫う。

かがり縫いステッチと同じく、かがり縫いと地縫いが同時にでき、ほつれやすい布や、伸縮性のある布で、縫いしろを割らなくてもいいものの縫い合わせに適しています。



《縫い方》

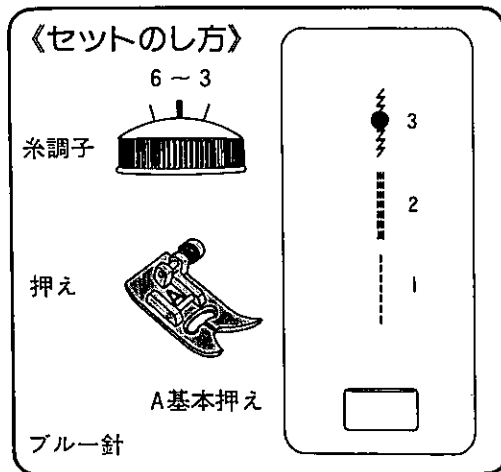
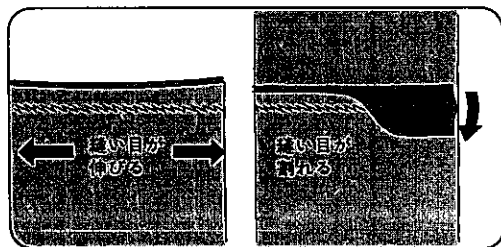
縫いしろを少し余分にとって縫い、余分なところを、縫い目の近くで切り落とし、片方に倒して仕あげる。

※伸縮性のある布は、押え圧ダイヤルの数字「1」、または「2」にし、ブルー針を使用してください。縫いおわたたら、ダイヤルを「3」に戻しておいてください。

ニット(ジャージー、トリコット)などの伸縮性のある布の縫い方に、直線状伸縮縫い、フェザーステッチがあります。
 この他にも、トリコット縫い裁ち目かがり、ニットステッチなどがあります。

直線状伸縮縫い

布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のある縫い目です。また、直線状なので縫いしろを割ることができます。

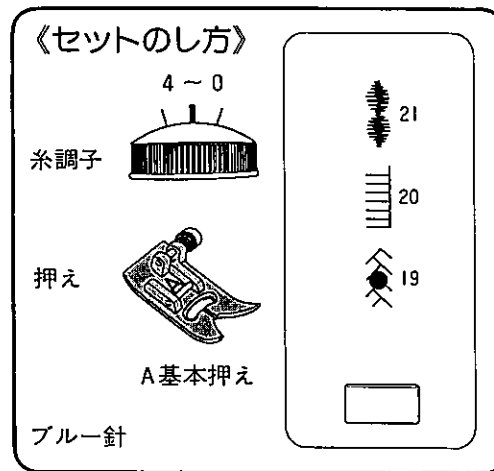


《縫い方》

直線縫いと同一。

☆フェザーステッチ

伸縮性のある、しっかりした縫い合わせができます。

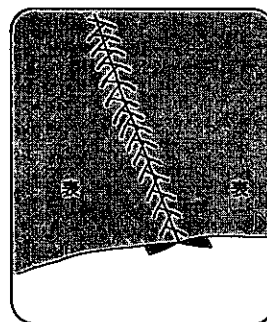


《準備》

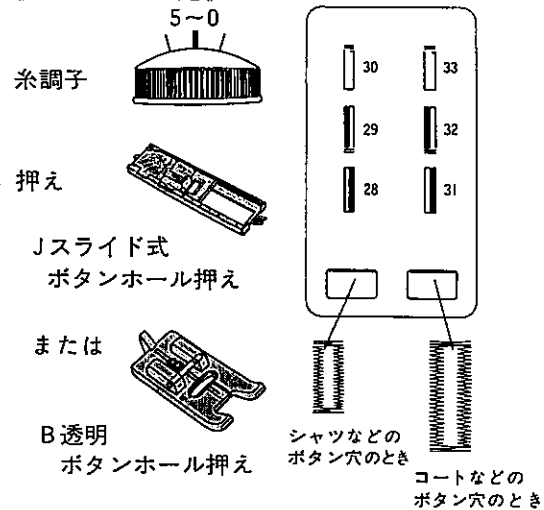
布を中表に合わせて、模様 2 または 3 で地縫いをし、縫いしろを割る。

《縫い方》

布の表から地縫い線を中心にして縫う。

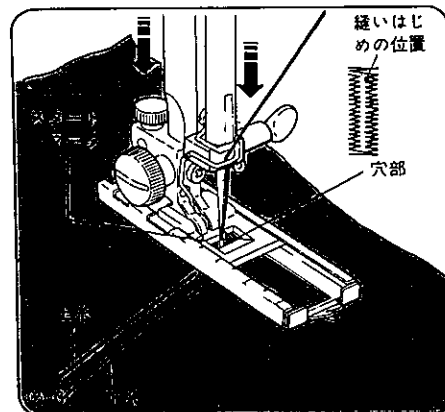


《セットのし方》



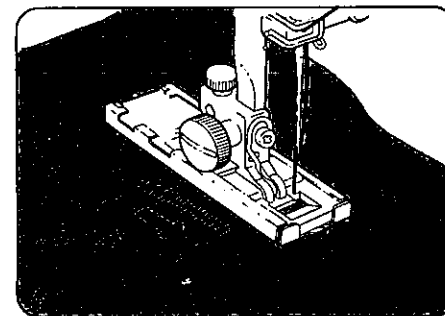
《縫い方》

①模様 28 を選ぶ。

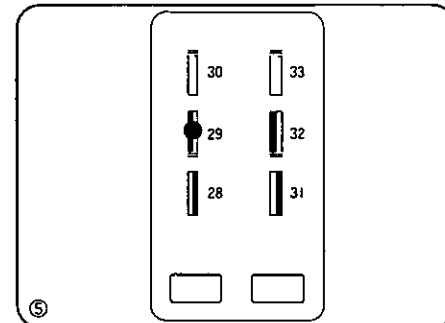


②上糸を、押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえる。

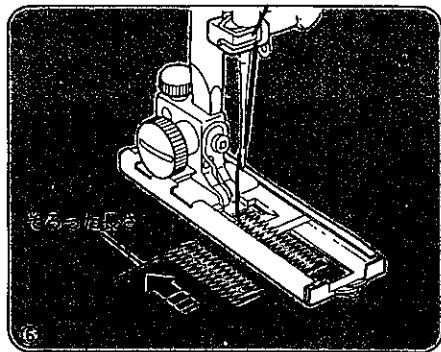
③押えの下に布を入れ、縫いはじめの位置に針をさして、押えをおろす。



④必要な長さだけ縫い、ミシンを止める。

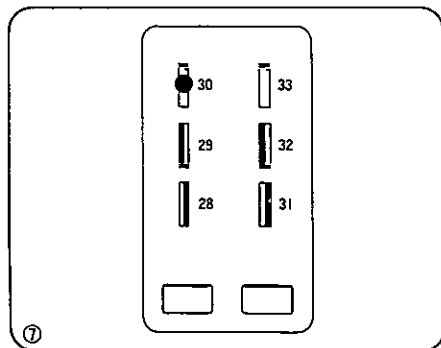


⑤模様 29 を選ぶ。

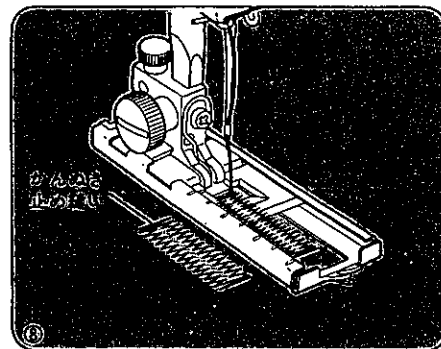


- ⑥ふたたびコントローラーを踏み、かんぬきと左側を縫い、縫いはじめの位置に戻ったら、そのまま4~5針多く縫い、ミシンを止める。

※日透明ボタンホール押えのときは、縫いはじめの位置に戻ったら、そのまま止めてください。

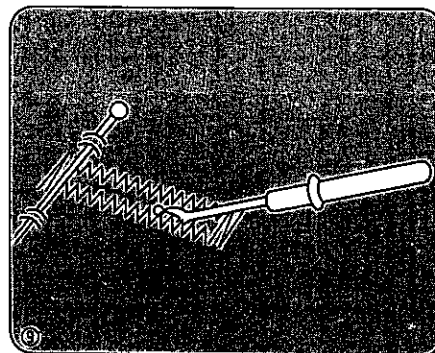


- ⑦模様 30 を選ぶ。



- ⑧コントローラーを踏むと、かんぬきと止め縫いをして、自動的に止まる。

※必ず自動的に止まるまで、踏みつけてください。



- ⑨布をはずして糸を切り、かんぬきの内側にまち針を縫いさし、目ほどきでかがった糸を切らないように、中央の布を切りひらく。

※縫うものと同じ布で、試し縫いをして確かめてから、縫ってください。

※ミシンが、そのボタン穴かがりを記憶していますので、針をスタート位置にさして、コントローラーを踏みつけるだけで、同じ大きさのボタン穴かがりが、いくつでも自動的にできます。

ただし、布の種類によっては、大きさがかわるものもあります。また、縫いの速さ、布の枚数など、縫い条件がかわると、大きさはかわります。このようなときは、日透明ボタンホール押えを使い、①~⑧の手順で、1つずつボタン穴かがりを行なってください。

※かがりの縫い目を密にしたり、丈夫にしたいときは、押えをあげないで、ふたたびコントローラーを踏み直し、先に縫ったところを重ねて縫う、2度縫いをしてください。

※コートなどのボタン穴かがりをする場合には、①~⑧の手順で模様 31~33 を選んでください。

※伸縮性のある厚手の布や、やわらかい厚手の布(ジャージー・ツイードなど)は、押え圧ダイヤルを「2」にすれば、きれいに仕上がります。

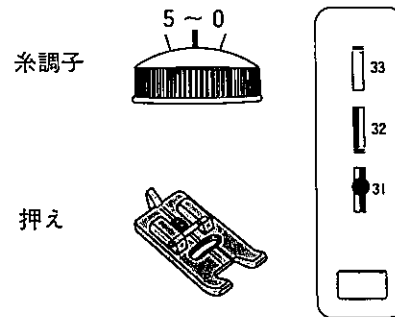
※伸縮性のある布には、布の裏に、伸びにくい芯地をはってください。

※ボタン穴かがりの右側と、左側の縫い目がそろわないときは、送り調節ねじで調節してください。また、送り調節ねじで、縫い目の調節をしたときは、もう1度①～⑧の手順で、試し縫いをして確かめてください。

※縫い目のあらさをかえたいときは、送りマニュアルで調節してください。

※送り調節ねじと、送りマニュアルの使い方は、27ページにあります。

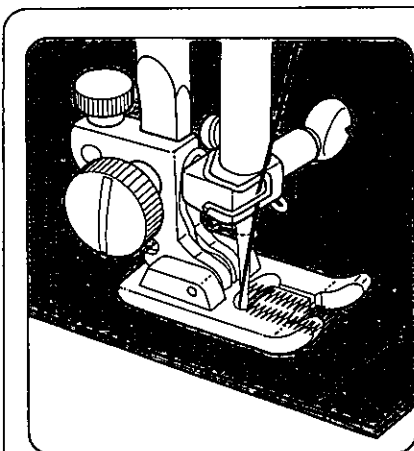
《セットのし方》



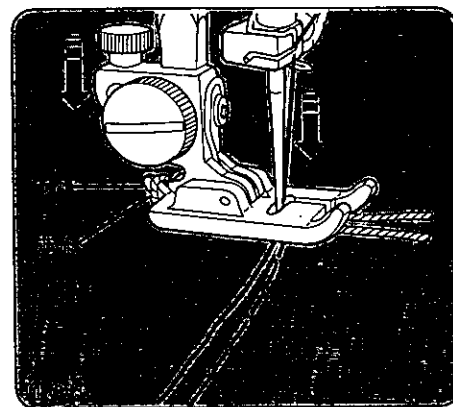
B 透明
ボタンホール押え

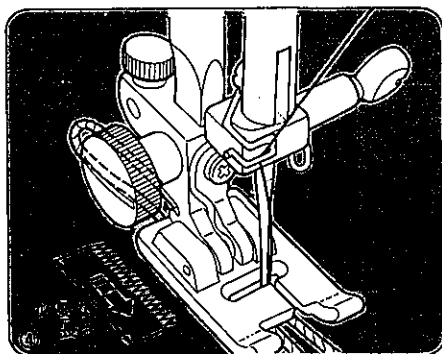
《縫い方》

- ①模様 31を選ぶ。
- ②芯糸の輪を押えの後ろ側にある「つ」に掛け、押えの下から、手前に引きだす。
- ③縫いはじめの位置に針をさし、押えをおろす。

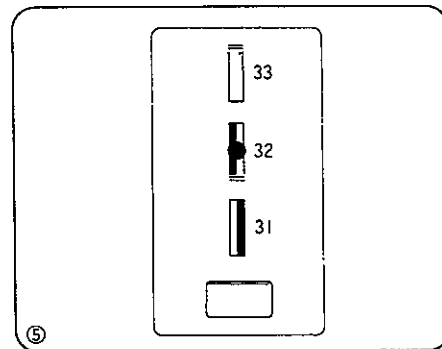


ボタン穴の位置が、縫いしろの重なっている部分のきわになるときは、段部に交わる向きにし、段部を手前にして、B透明ボタンホール押えを使用して、①～⑧の手順で縫う。

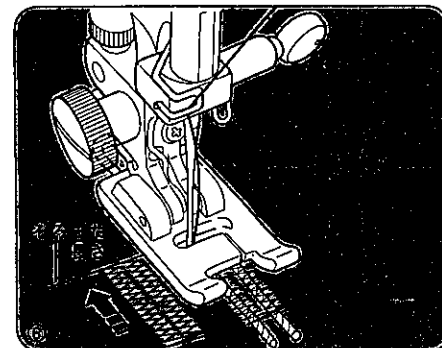




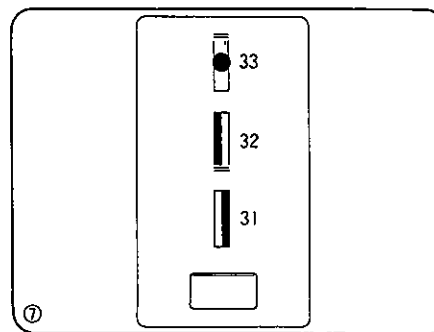
④ 2本の芯糸を、つのの巾に平行にして、軽く布面に押しつけながら、必要な長さだけ縫い、ミシンを止める。



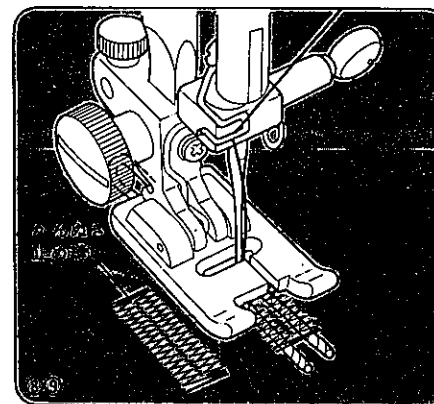
⑤ 模様 32 を選ぶ。



⑥ 押えの後ろ側に出ている、芯糸の「輪」が、つのに掛からないように、布面に押しつけてから、コントローラーを踏み、かんぬきと左側を縫う。縫いはじめの位置に戻ったら、ミシンを止める。

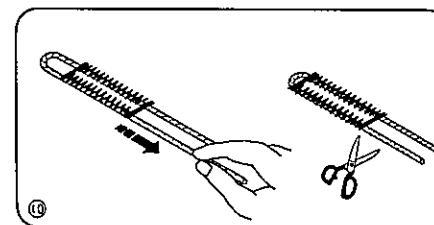


⑦ 模様 33 を選ぶ。



⑧ コントローラーを踏むと、かんぬきと止め縫いをして、自動的に止まる。

⑨ 押えをあげ、布を引き出し、糸を切る。

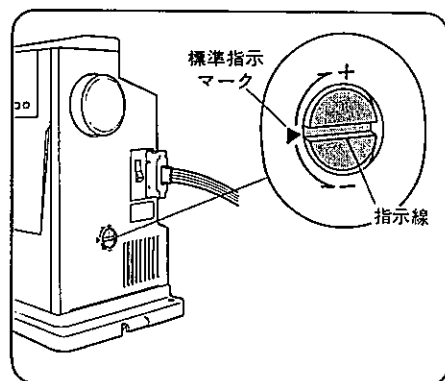


⑩ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし、余分な芯糸を切る。

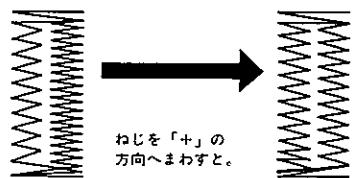
☆ボタン穴かがりの縫い目の調節

《左、右の縫い目のそろえ方》

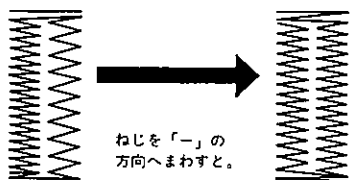
布によっては、ボタン穴かがりの、左側と右側の縫い目が、そろわないことがあります。このときは、下の方法で調節します。



左側があらいとき
送り調節ねじを「+」方向にまわす。

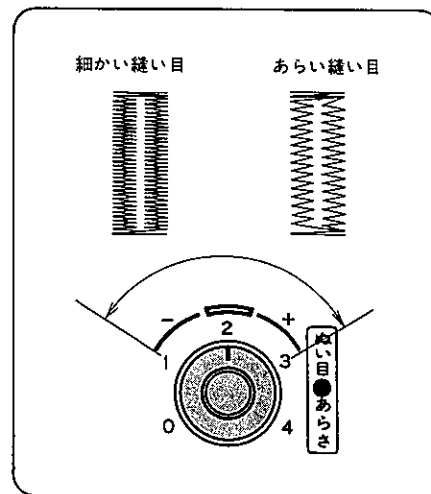



右側があらいとき
送り調節ねじを「-」方向にまわす。



《縫い目のあらかさの替え方》

自動セットの縫い目のあらかさから、あらかさをかえたいときは、下の方法で調節します。

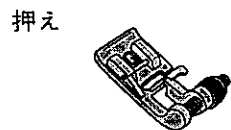
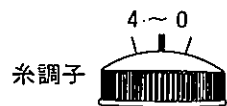


送りマニュアルのつまみをまわして、の範囲で調節し、押す。赤いシグナルがついたか確かめる。

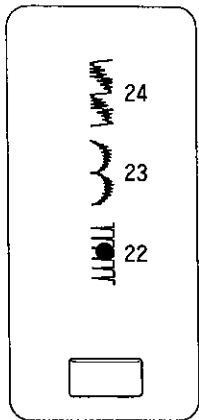
※送り調節ねじで縫い目の調節をしたときは、もう1度、試し縫いを行なってください。

※縫いおわったら、送り調節ねじの指示線を、▶印に戻してください。

《セットの仕方》



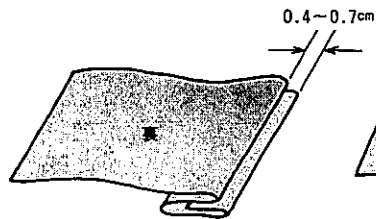
Gくけ縫い押え



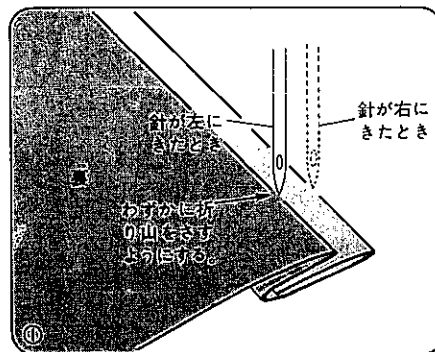
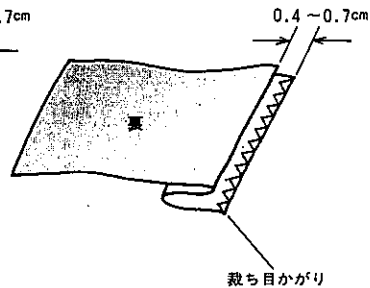
※伸縮性のある布を縫うときは、
模様②5を選びます。

《布の折り方》

うすい布、普通の布の場合

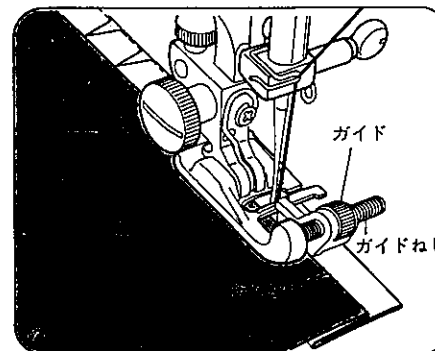


かたい布、厚い布の場合

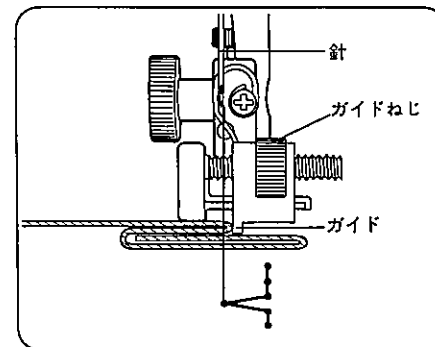


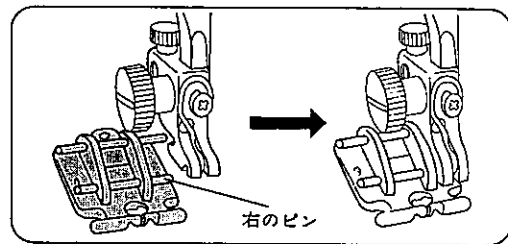
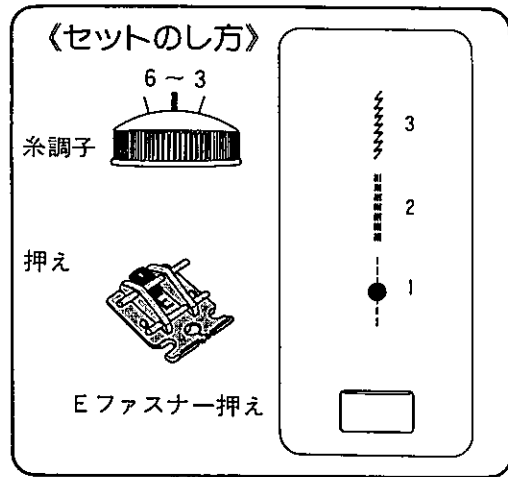
《縫い方》

①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときに、針がわずかに折り山をさすように布を置いて、押えをおろす。

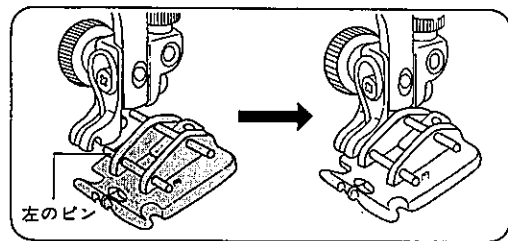


②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針がはずれないように縫う。

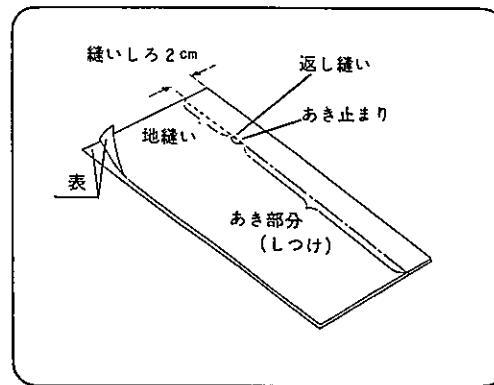




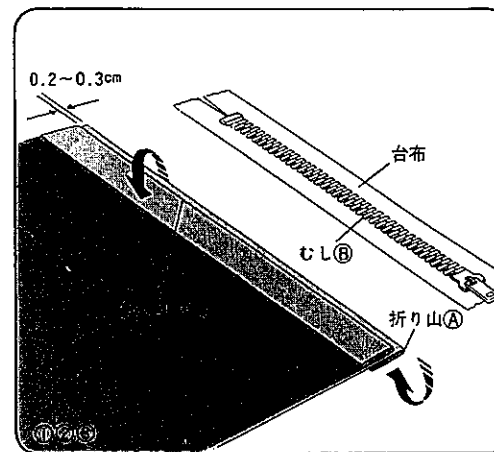
《押えのつけ方》
 むしの左側を縫うときは、右のピンにとりつける。



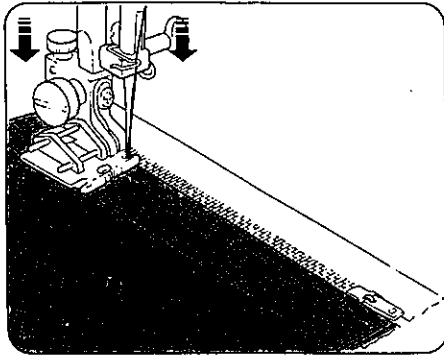
《押えのつけ方》
 むしの右側を縫うときは、左のピンにとりつける。



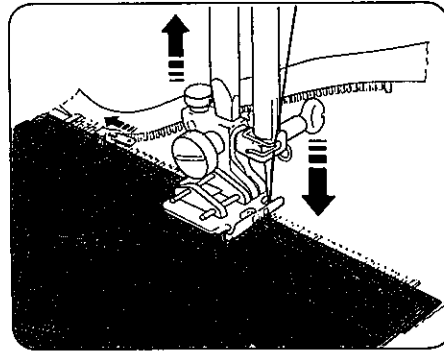
- 《準備》
- ①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをする。
 - ②あき部分は、しつけをする。



- 《縫い方》
- ①上の布の縫いしろを、縫い目の線で折り返す。
 - ②下の布の縫いしろは、縫い目の線から0.2~0.3cm出して、下に折り返す。
 - ③ファスナーのむし⑧を、折り山④にそわせて、布をファスナーの台布にのせる。

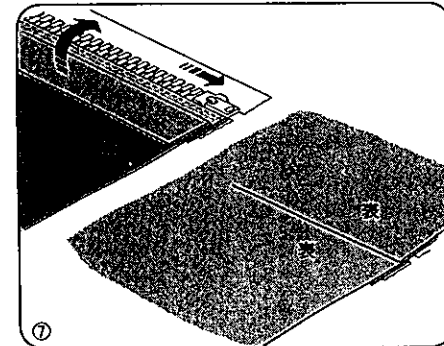


④押えを、右のピンにとりつけ、縫いはじめの位置に針をさし、押えをおろして縫う。

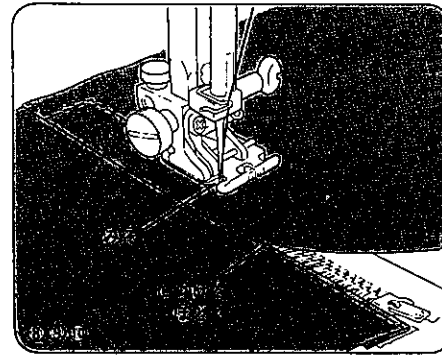


⑤押えが、スライダーにあたる手前で、ミシンを止める。

⑥はずみ車を手でまわして、針を布にさしたまま、押えをあげ、スライダーを押えの向こう側にずらし、押えをさげて、残りを縫う。



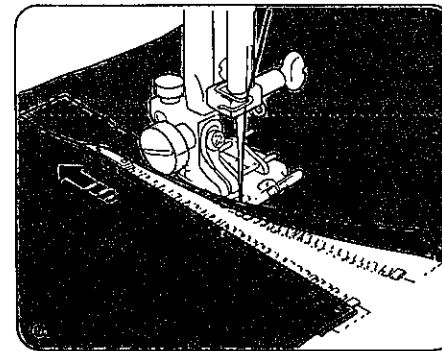
⑦スライダーをもとに戻し、布をひらいて、表にする。



⑧押えを左のピンにつけかえ、ファスナーのむしを、布の上から押えの裏のみぞにあてて縫う。

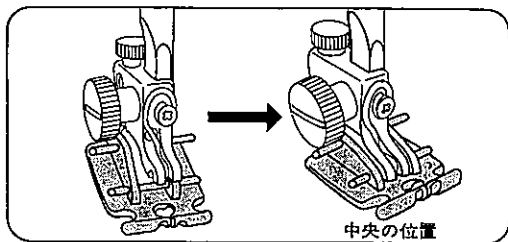
⑨押えがスライダーにあたる手前で、ミシンを止める。

⑩はずみ車を手でまわして、針を布にさし、押えをあげ、しつけをほどく。

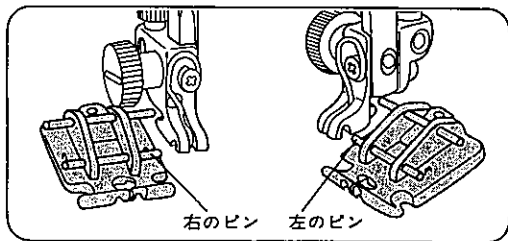


⑪スライダーを押えの向こう側にずらし、押えをおろして、残りを縫う。

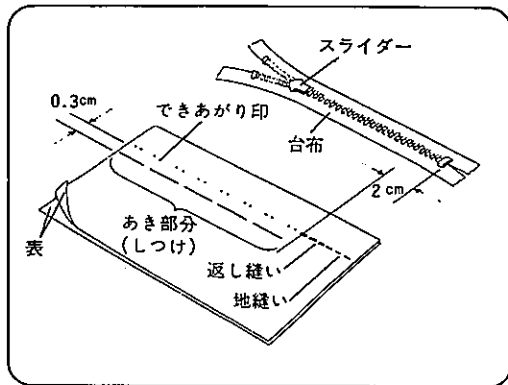
※縫い方の説明は、スカート左脇あきファスナーつけの例です。



中央の位置



右のピン 左のピン



※ファスナーは、あき寸法より2cm長いものを用意します。

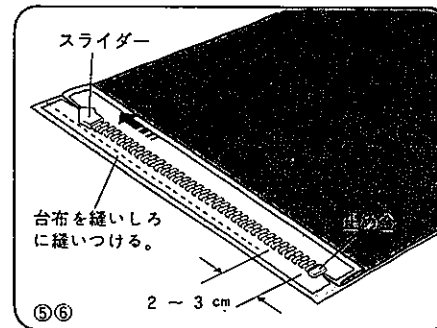
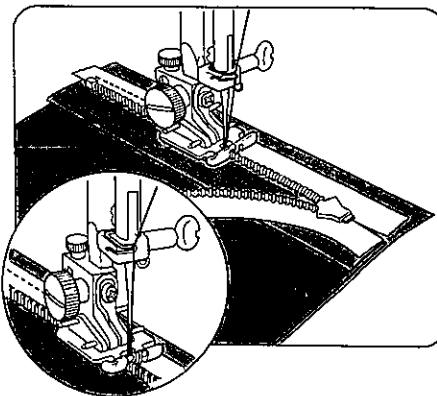
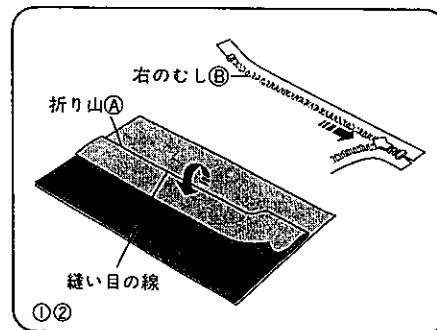
《押えのつけ方》

むしの左側と右側を縫うときは、中央の位置にとりつける。

台布の左側を、縫いしろに縫いつけるときは、右のピンに、右側のときは、左のピンにとりつける。

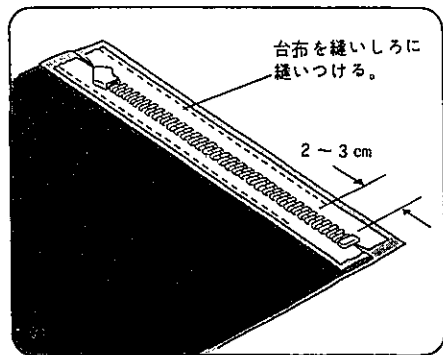
《準備》

- ①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをする。
- ②あき部分は、地縫い線(できあがり印)から、0.3cm内側に「しつけ」をする。

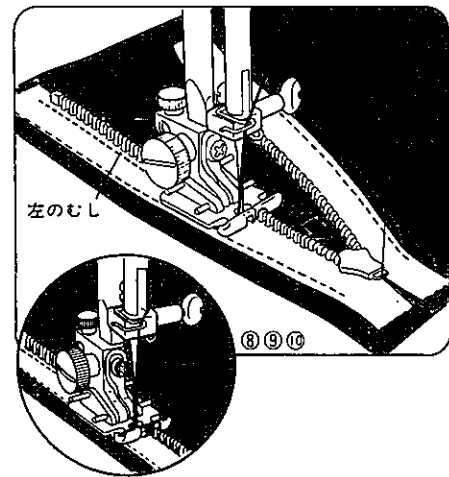


《縫い方》

- ①上の布の縫いしろを、縫い目の線で、身頃側へ折り返す。
- ②ファスナーをひらいて、右のむし⑧を、折り山Aにあてておく。
- ③押えを、中央の位置にとりつけ、右のむしを立てて、押えの裏の左側のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えの位置をやや右によせ、押えをおろす。
- ④むしをおこしながら、あき止まりまで縫う。
- ⑤押えをあげて、スライダをとじる。
- ⑥押えを、右のピンにつけかえ、ファスナーの下の身頃を、右側に折り返して、左側の台布の端を、縫いしろに止め金から2~3cmのところまで縫いつける。



⑦押えを、左のピンにつけかえ、スライダーの下の身頃を、左側に折り返して、右側の台布の端を、縫いしろに止め金から2~3cmのところまで縫いつける。



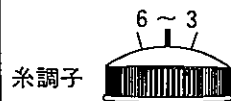
⑧押えを中央の位置につけかえ、しつけをほどき、スライダーの下の身頃を、右側に折り返してスライダーを、止め金までいっぱいひらく。

⑨左のむしをおこし、押えの裏の右側のみぞに入れ、針がむしのきわを縫うように、押えの位置をやや左によせ、押えをおろす。

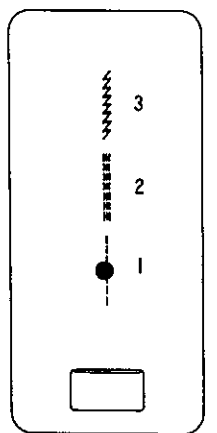
⑩むしをおこしながらあき止まりまで縫う。

☆直線三つ巻き縫い

《セットのし方》



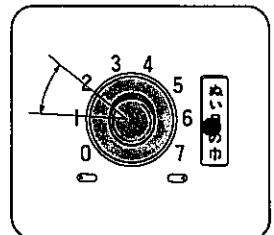
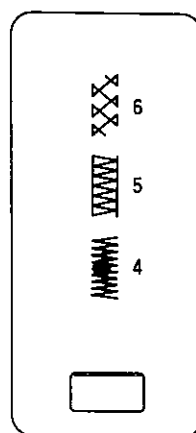
D三つ巻き押え

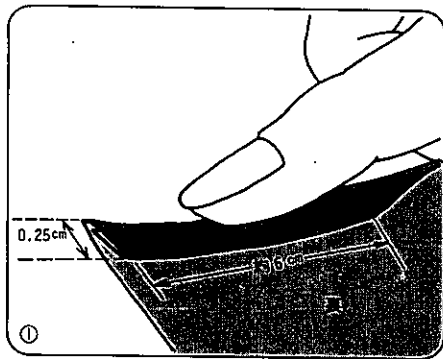


《セットのし方》



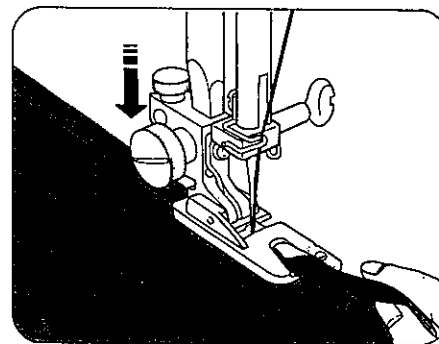
D三つ巻き押え



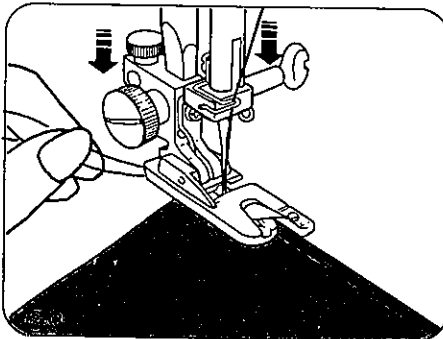


《縫い方》

① 布端の長さ約 6 cm を、0.25 cm くらいの巾で、2 度折りまげる。



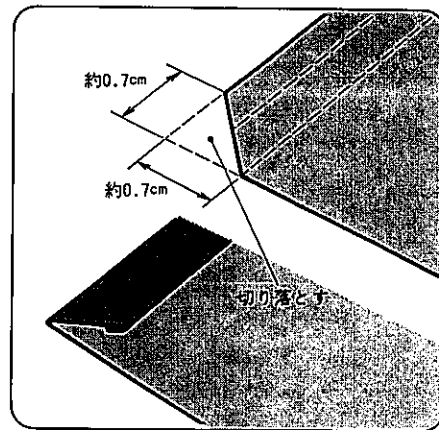
⑤ 押えをおろし、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら、縫う。



② 縫いはじめの部分に針をさし、押えをおろす。

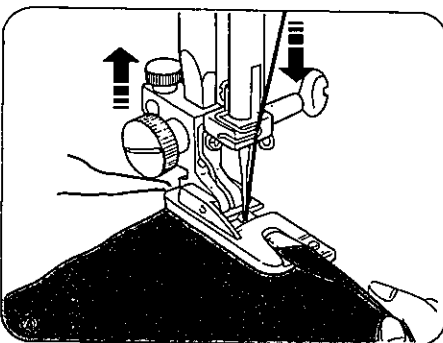
③ 上糸と下糸を、そろえて向こう側に引きながら、1 ~ 2 cm 縫う。

※ 縫い方は、直線三つ巻き縫い、ジグザグ三つ巻き縫いとも同じです。

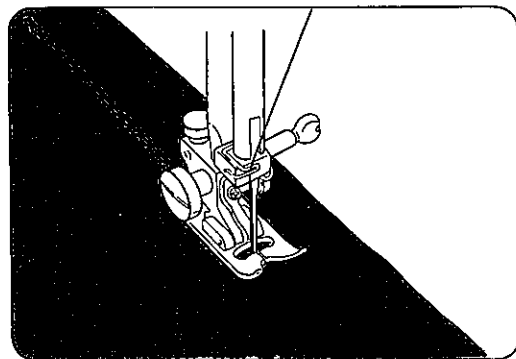
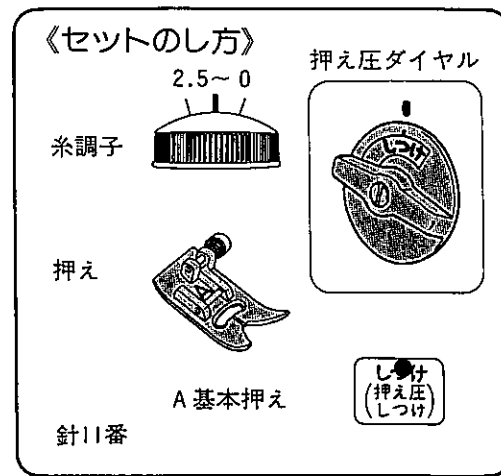
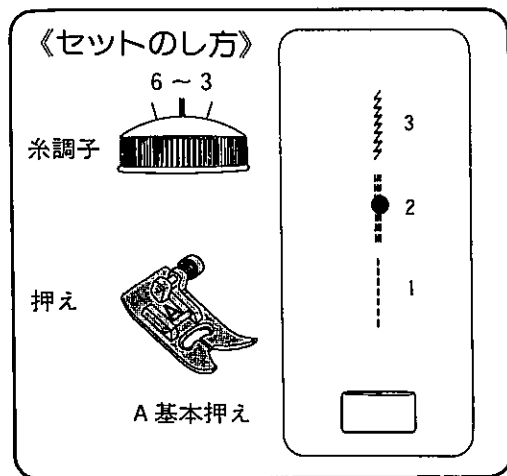


《布端のしまつの仕方》

三つ巻き縫いの重なる部分は、布端を切り落として折り合わせ、厚みをうすくする。



④ はずみ車を手でまわし、針をさし、押えをあげ、折りまげた布の部分を、押えの渦の中に巻きこむ。



《縫い方》

布が前後するので、縫い目が、まがらないように、注意して縫う。

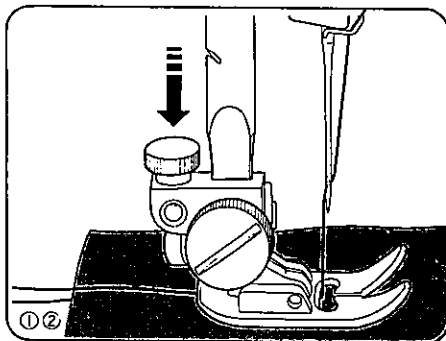
※三重縫いにセットされると、針穴はとじ、直線専用の小さな針穴になります。

※「しつけ」にセットされると、針穴はとじ、直線専用の小さな針穴になります。とじないときは、手ではずみ車をまわして、針をあげてください。

※縫い終わったら、押え圧ダイヤルを「3」に戻しておいてください。ダイヤルが「しつけ」になっているときは、模様選択キーを押しても、他の模様は選べません。

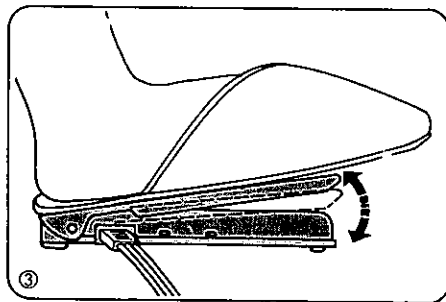
※糸は、ジャノメマシン直営支店で販売している、マシン専用の「しつけ糸」を使用してください。

☆しつけ

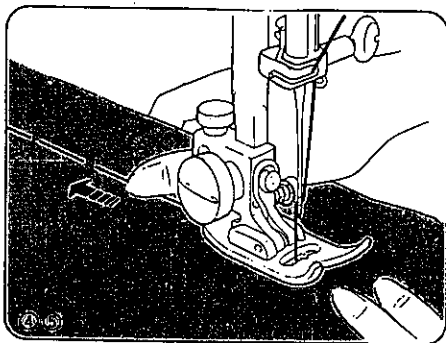


《縫い方》

- ①上糸と下糸を、向こう側に引いて、押えをおろす。
- ②布を前後にピンと張って、縫いはじめる。

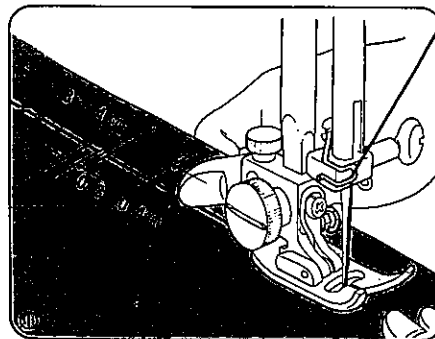


- ③コントローラーをいっぱい踏みこみ、1針縫って針が止まったら、つま先をあげる。



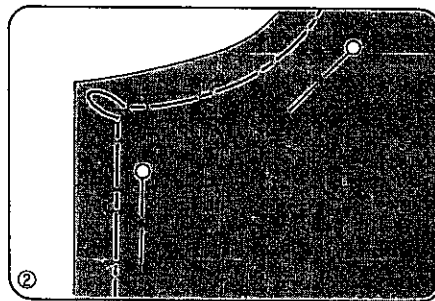
- ④縫い目をつまんで、布を向こう側に引き、さらに②～③の要領をくり返す。
- ⑤縫い終わったら、糸と布を指で押えて、向こう側に引き出し、糸を切る。

☆切しつけ

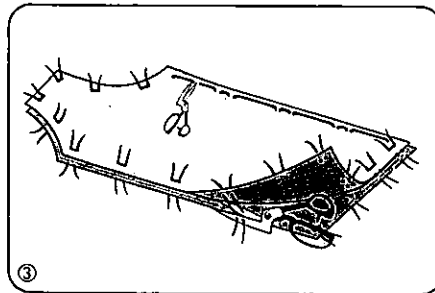


《縫い方》

- ①0.3～0.4cmくらいの短い縫い目と、3～4cmくらいの長い縫い目を、交互に縫う。



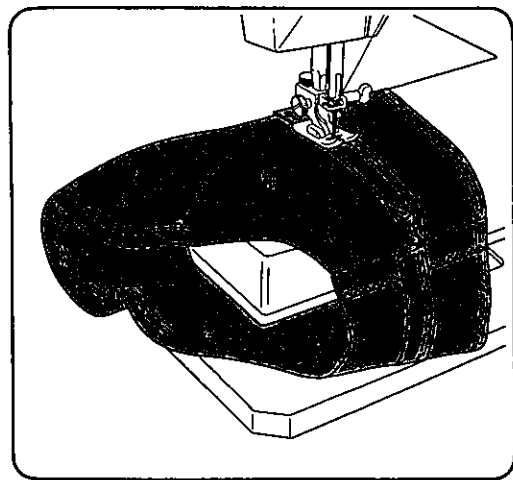
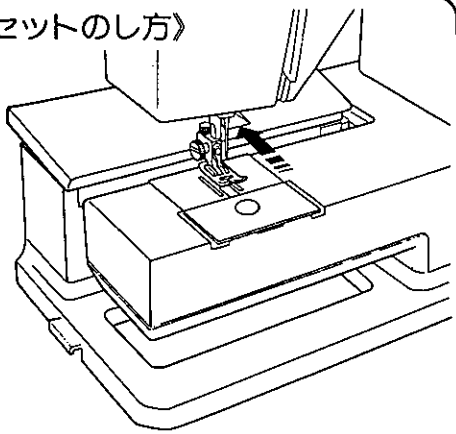
- ②縫い方向をかえるときは、チャコで印をつけたところを、2針ずつ近づけて縫い、かどのところは、糸をたるませる。



- ③長い縫い目の糸を、両面とも中間で切る。さらに、2枚の布をひらきぎみにして、布の間の糸を切る。糸を0.5cmほど残して切りそろえ、アイロンで押えて、仕あげる。

※ミシンの針目が残ると困る布は、さけてください。

《セットの仕方》



《縫い方》

フリーアームに、筒部を入れて縫う。

利用例



《セットのし方》

4-0

糸調子



押え



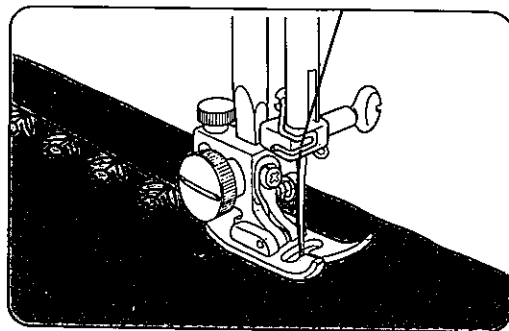
A 基本押え

15

14

13

※模様は⑤～⑳までが使えます。



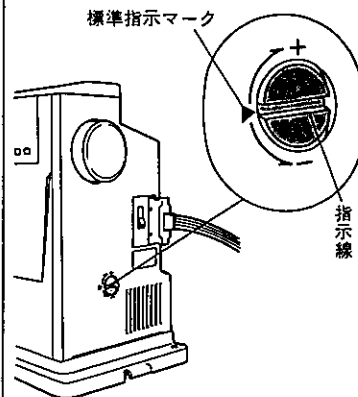
《縫い方》

- ①模様を選ぶ。
- ②コントローラーを踏むと、選んだ模様のはじめから、自動セットの縫い目のあらし、縫い目の巾で、連続して縫える。

※縫い目のあらしや、巾をかえると、変化した模様ができます。かえ方は、16、19ページにあります。

《模様の形の整え方》

模様がくずれた場合は、送り調節ねじで調節する。



模様が伸びているとき



ねじを「-」の方向へまわすと

模様がつまっているとき

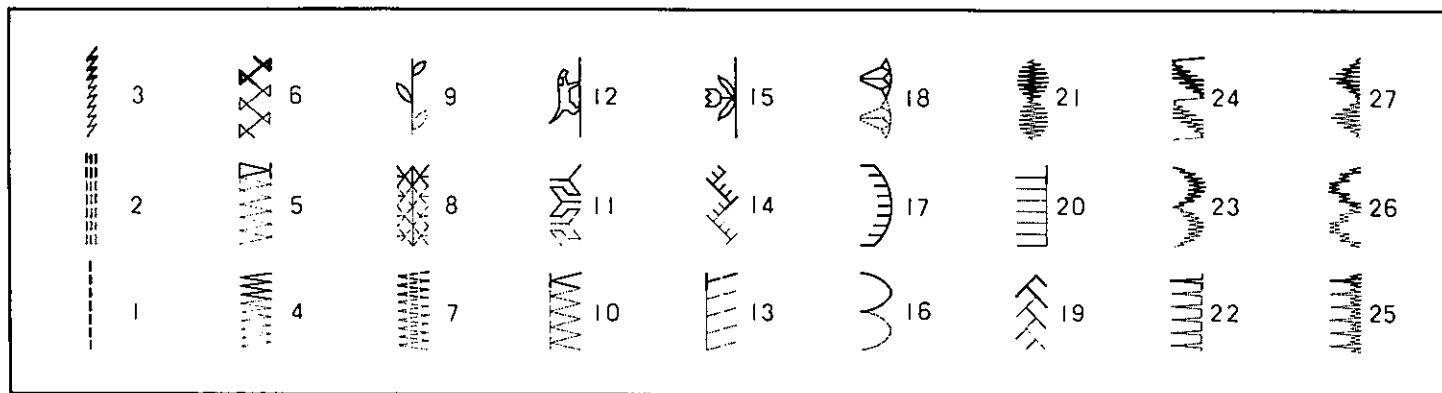


ねじを「+」の方向へまわすと

※縫い終わったら、ねじの指示線を▶印に戻します。

ミシンが記憶する模様の組み合わせをプログラムして、組み合わせる模様を1サイクルだけ縫って止めることも、連続して、くり返し縫いつづけることもできます。組み合わせ模様は、止め縫いを加えて、7つまで記憶できます。
 (はじめに止め縫いを入れた場合のみ、止め縫いを含めて8つまで記憶できます。) ※8つめからは、模様を選んで記憶キーを押しても、記憶しません。

《模様の単位》



※模様表示を太く示している部分が、それぞれの模様の単位となります。

《プログラムの基本》

① 記憶の方法

模様を選んで、記憶キーを押すと、押した数だけ記憶する。他の模様を選んで、記憶キーを押すと、前の模様につづいて記憶する。

② 反転記憶の方法

模様を選んで、反転記憶キーを押すと、選んだ模様を左右反対に、押した数だけ記憶する。

③ 縫い止めの方法

縫いはじめに止め縫いキーを押し、記憶キーを押せば、縫いはじめに止め縫いを入れた模様縫いができる。模様を記憶させた後、止め縫いキーを押し、記憶キーを押せば、記憶した模様を、1サイクルだけ縫って、自動的に止め縫いをして、止まる。模様を1つ記憶させて、止め縫いを記憶させれば、模様を1つだけ縫って止まる。

④ 取り直し

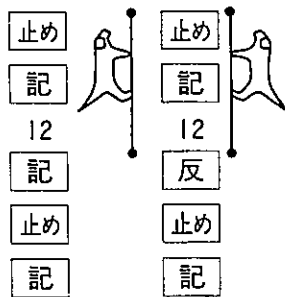
とり直しキーを押すと、記憶はすべて消える。
 模様縫いをしている途中でとり直しキーを押すと、赤いシグナルのついている模様をはじめから縫うことができるので、縫い方向をかえるときなどに利用できる。

※模様を選んで記憶キー、反転記憶キーと押せば、同じ模様を記憶、反転記憶します。

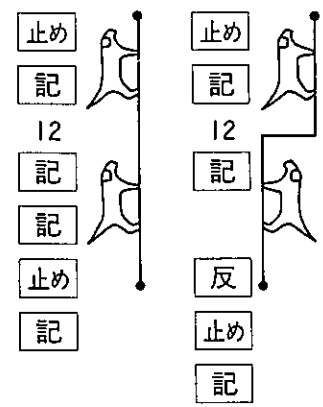
※電源を切るか、または1度縫ってから模様選択キーを押したときは、記憶は消えます。

《プログラム縫いの例》

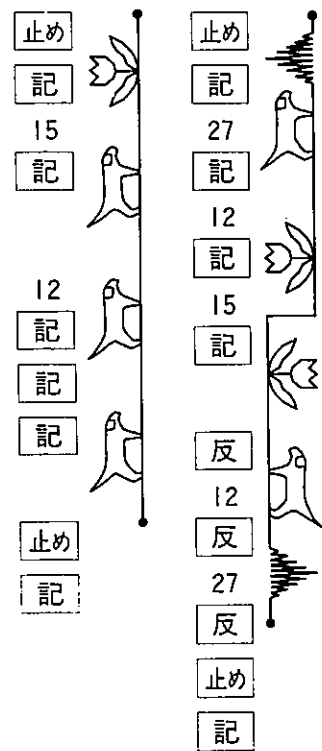
縫い目



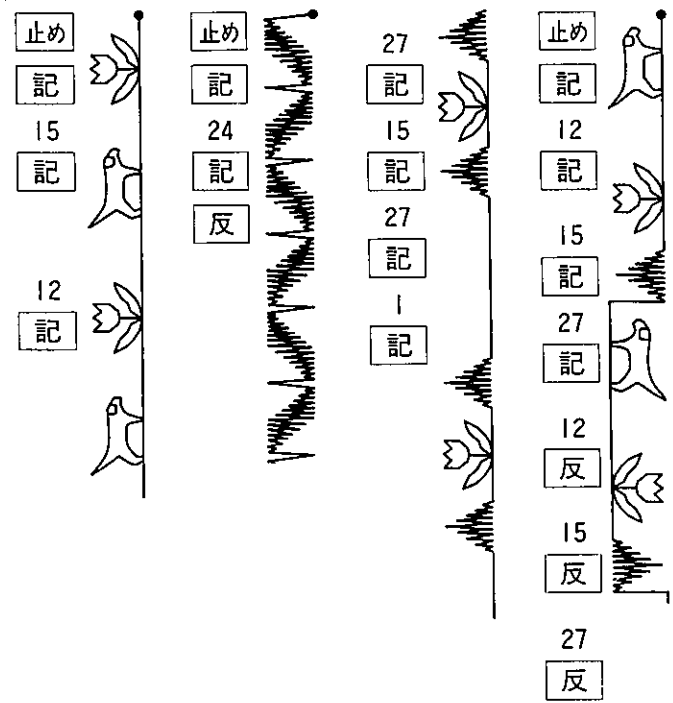
縫い目



縫い目



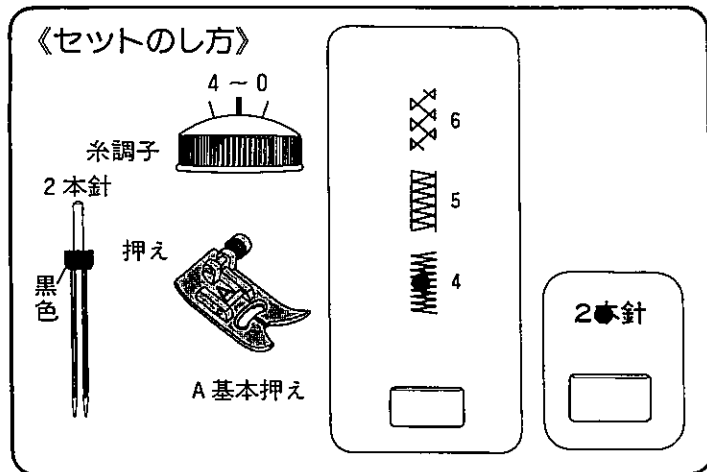
縫い目



※コントローラーを踏み直すと、ふたたび同じ模様が縫えます。

《記号の説明》

- 15 数字で示す模様の番号
- 記 記憶キー
- 反 反転記憶キー
- 止め 止めぬいキー



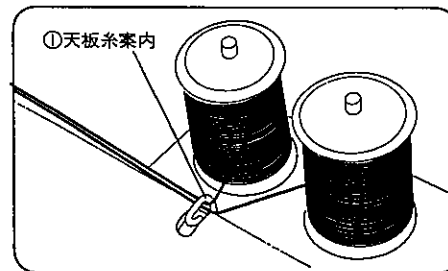
※模様は、①③④⑤⑧⑩⑬⑭⑰⑱⑲が使えます。

※針のとりかえは、ミシンのセットをした後に行なってください。

※ジヤノメ2本針(黒色)を使用してください。

※縫い方向をかえるときは、針をあげたまま、布の方向をかえてください。

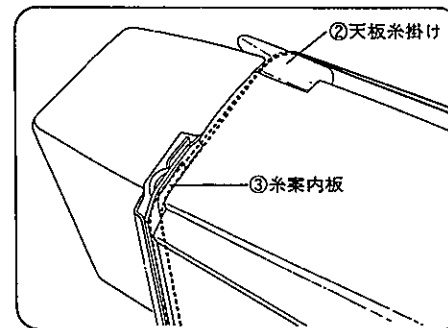
※縫い終わったら、針をとりかえ、2本針キーを押して、赤いシグナルを消してください。



《2本針縫いの上糸の掛け方》

①天板糸案内に、2本の糸を、そろえて掛ける。

②天板糸掛けに、掛ける。

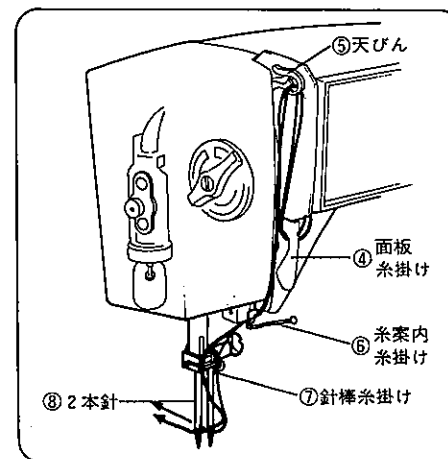


③糸案内板の左右に、分けて通す。

④面板糸掛けに、ふたたび2本の糸を、そろえて掛ける。

⑤天びんに、掛ける。

⑥糸案内糸掛けに、掛ける。



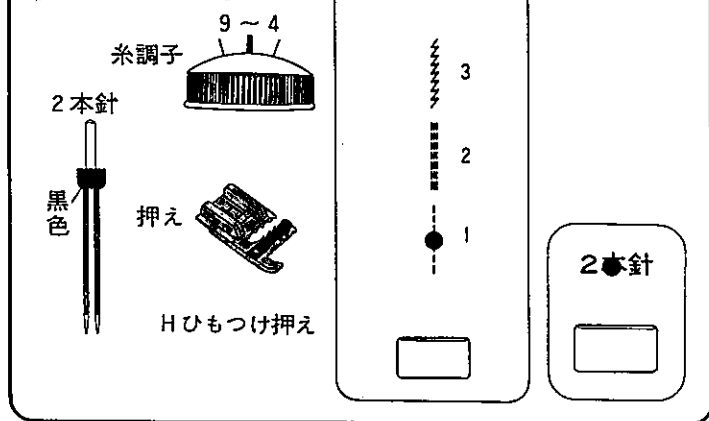
⑦針棒糸掛けには、糸を、左右に分けて掛ける。

⑧2本針に、通す。

※押えをあげ、天びんが最上部にあるのを確かめて、糸ごまを押えながら正しく糸を掛けてください。
 ※糸通しは使えませんので、針の手前から向こう側に手で糸を通してください。

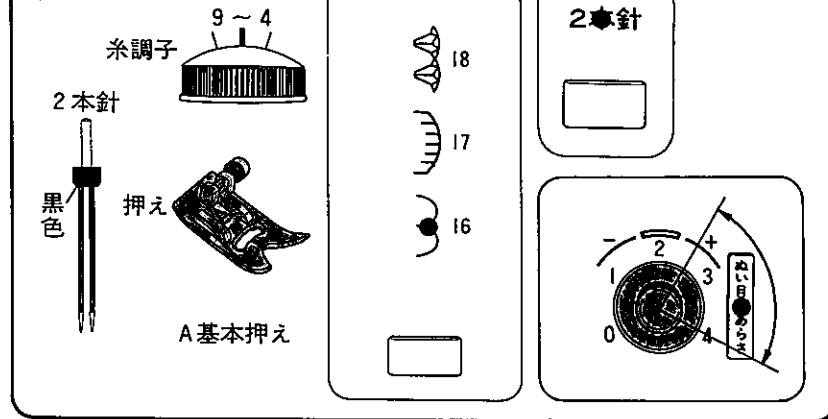
※糸ごまから針まで、2本の糸は、よじれないように、掛けてください。

《セットのし方》

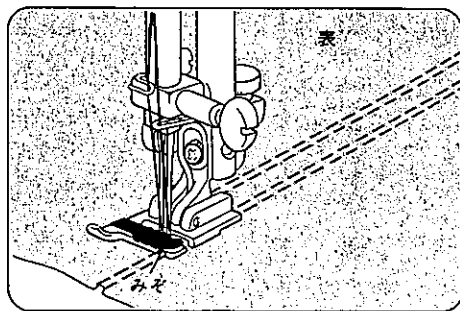


※針はジャノメ2本針(黒色)を使ってください。

《セットのし方》



※針はジャノメ2本針(黒色)を使ってください。



《縫い方》

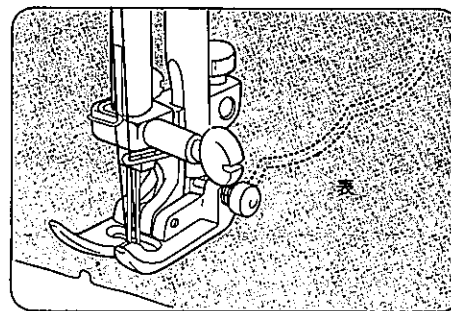
布を、前後にピンと張ってから、縫う。0.4cmくらいの間かくて、何本かのピンタックをするときは、ひもつけ押えの裏のみぞに、前のピンタックの山を入れて縫えば、平行にできる。山を、片側にアイロンで倒す。

※上糸の掛け方は、40ページにあります。

※縫い目のあらかの調節のし方は、16ページにあります。

※この縫い方は、うすい布が適当です。必ず、同じ布で試し縫いをして、確かめてください。

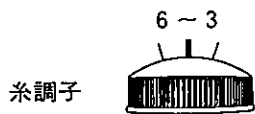
※縫い終わったら、2本針キーを押し、赤いシグナルを消してください。



《縫い方》

布をバイアスにを使って、縫い目のあらかをかえ、山の形を調節する。

《セットのし方》(A)



A 基本押え



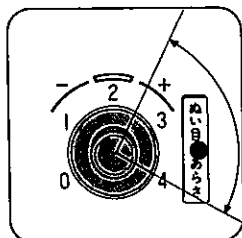
18



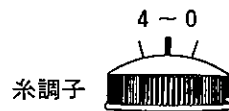
17



16



《セットのし方》(B)



A 基本押え



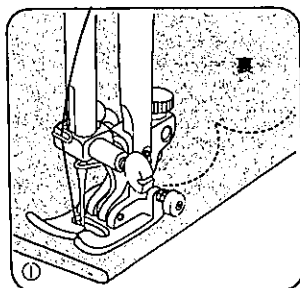
18



17

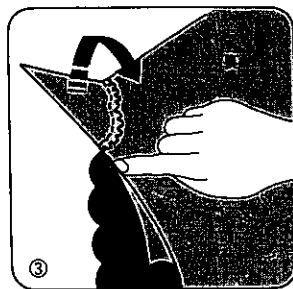


16

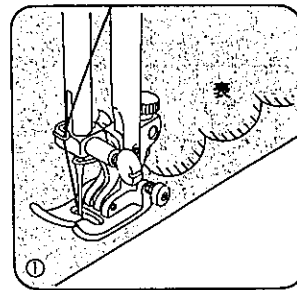


《縫い方》

- ① 布を中表に折り、その端を縫う。

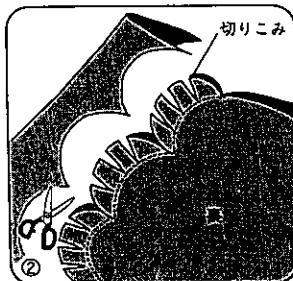


- ③ 布を表に返して、スカラップの山を表に出し、アイロンで仕あげる。



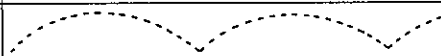
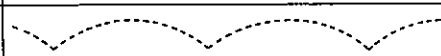
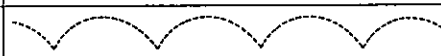
《縫い方》

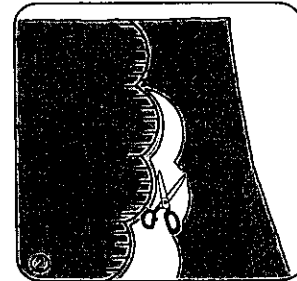
- ① 布を表から、布端を1cmくらい残して、縫う。



- ② 縫い目にとって、0.3cm くらいの縫いしろを残して切りとり、縫いしろに切りこみを入れる。

《送りマニアルの操作でかわる縫い目の変化》

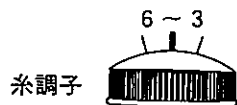
目盛り	縫い目の変化
4	
3.5	
2.5	



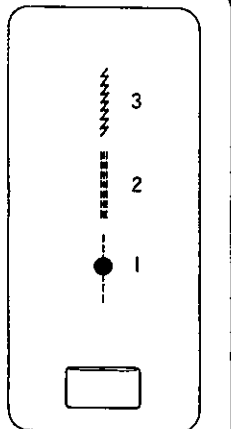
- ② 糸を切らないように、外側の布を切り落とす。

* 布は返しません。

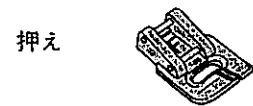
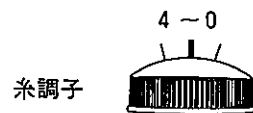
《セットのし方》



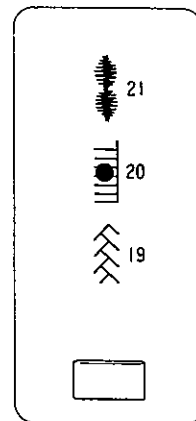
I キルター(棒定規)+ A 基本押え



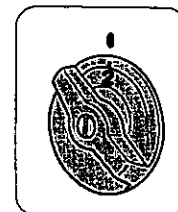
《セットのし方》



F アププリケ押え



押え圧ダイヤル



※アププリケ押えのつけ方は、6 ページにあります。

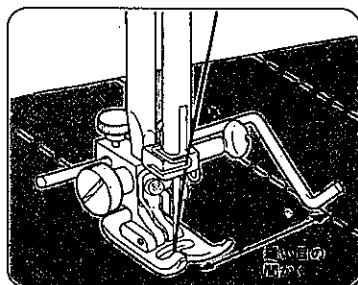
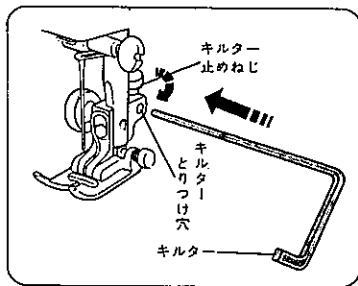
※縫い終わった後、押え圧ダイヤルを「3」に戻しておいてください。

《キルターのつけ方》

キルター止めねじをゆるめて、キルター(棒定規)を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめる。

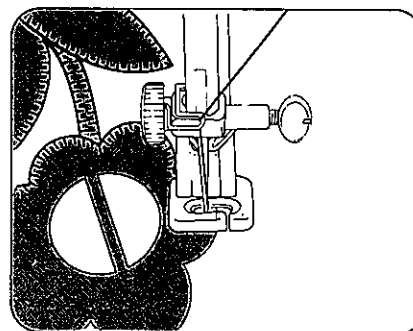
《縫い方》

前に縫った縫い目を、キルターの先でたどりながら縫う。



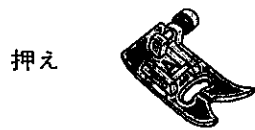
《縫い方》

糊づけ、または、しつけて止めたアププリケ布のふちの右に針がくるようにして縫う。

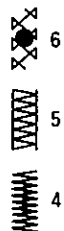


※急角度のところは、針をアププリケ布の外側にさしたままで向きをかえると、きれいに仕上がります。

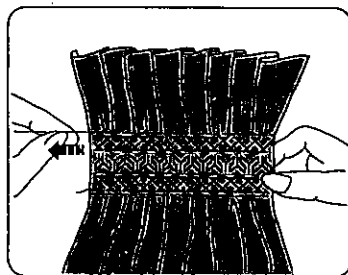
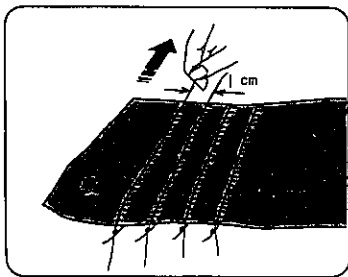
《セットのし方》



A 基本押え



※模様は、⑥⑨⑩⑭が使えます。



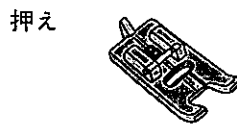
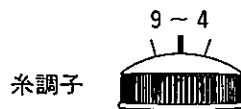
《準備》

- ①上糸調子を弱くし、縫い目のあ
らさ0.3~0.4cmの直線で、1cm
の間かくに数本縫う。
- ②一方の布端の上糸と下糸を、む
すぶ。反対側から下糸を引いて、
平均にひだをよせる。よせたひ
だが伸びないように、上糸と下
糸をむすぶ。

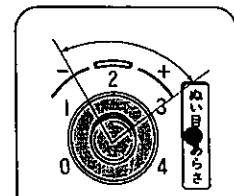
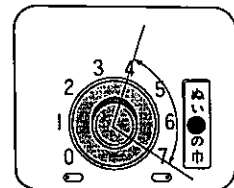
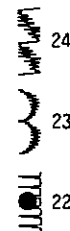
《縫い方》

- ①直線縫いの糸と糸の間に模様縫
いをする。
- ②直線縫いをした糸を抜きとる。

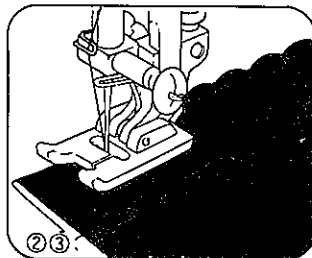
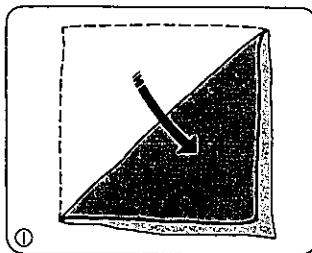
《セットのし方》



B 透明ボタンホール押え

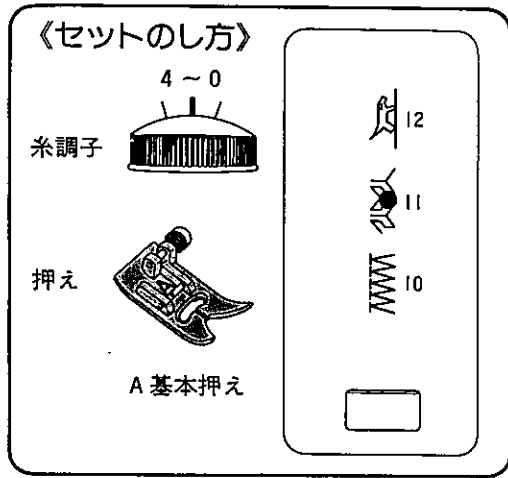


※糸調子は「4」~「9」を目安に、試し縫いをして、シェルタックの山がきれいにできるよう、調節してください。

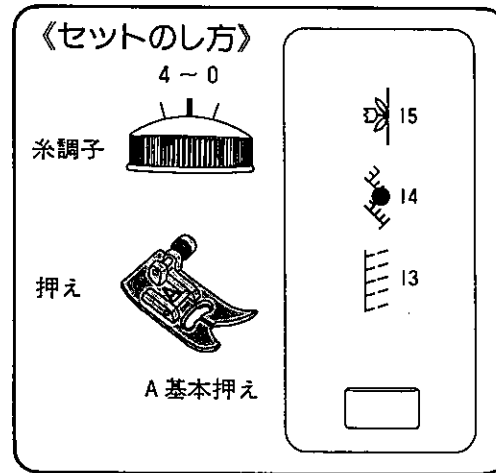


《縫い方》

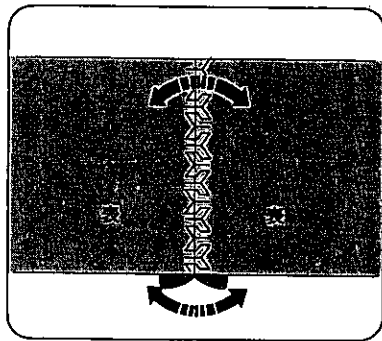
- ①布を、バイアスに2つ折りにす
る。
- ②左の針位置が、布の「輪」の外側
きわにおりるようにして縫う。
- ③布をひらいて、山をアイロンで
片側に倒す。



※模様は⑥⑪⑱が使えます。



※模様は⑥⑨⑪⑲⑳が使えます。

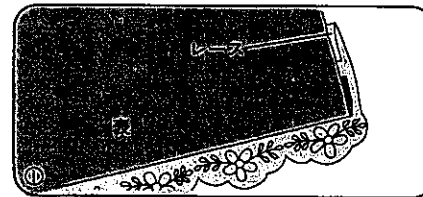


《準備》

布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割る。

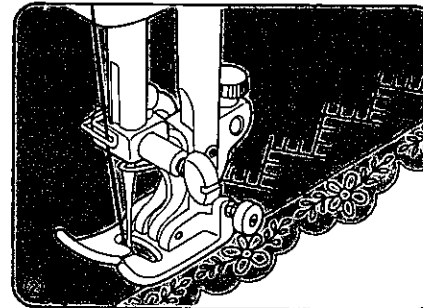
《縫い方》

布の表から、地縫いの線を中心にして縫う。

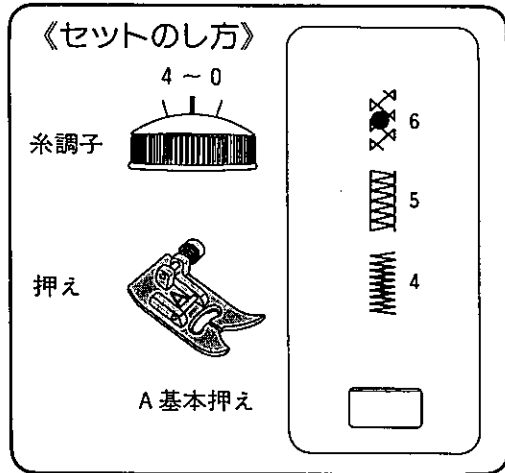


《縫い方》

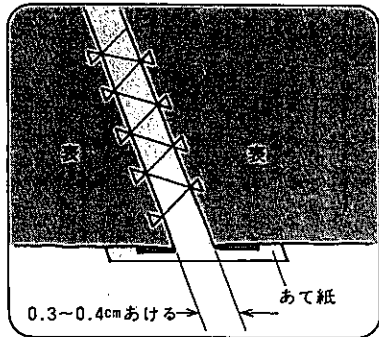
①布端を裏側に、レースの端を、表側に折り返して、折り返した部分のふちを、突き合わせて重ねる。



②布の表から①の突き合わせ線を中心にして縫う。

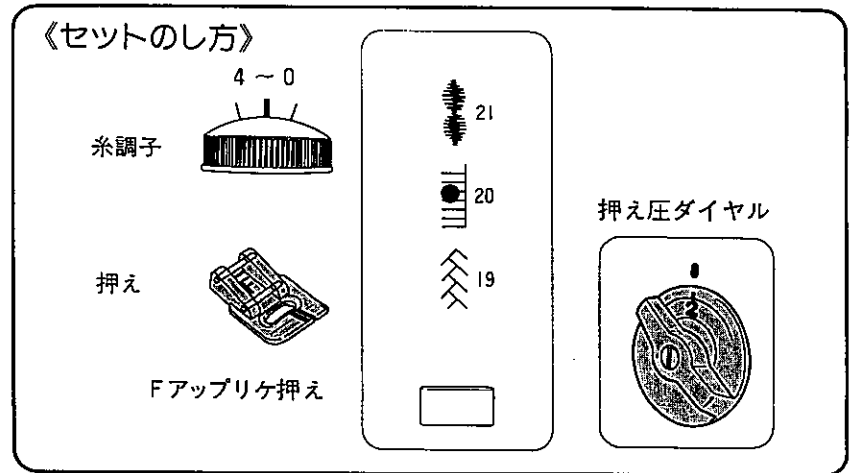


※模様は⑥⑪⑬が使えます。



《縫い方》

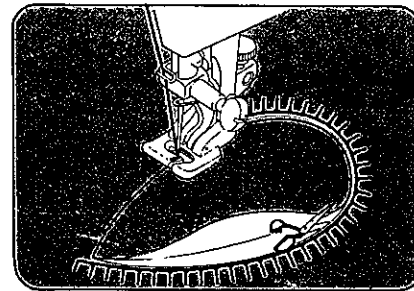
- ①布端と布端の間かくを、0.3~0.4 cmあけて、裏にあて紙をする。
- ②布の表から間かくの中央を中心に縫う。
- ③あて紙をとる。



《縫い方》

(A)

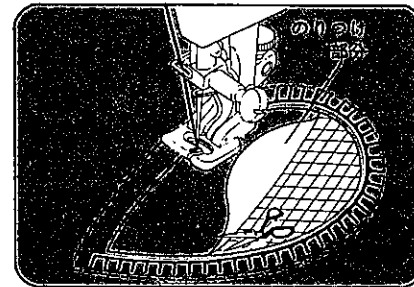
布の表から模様のみちをかがり、かかった糸を切らないように、中を切り抜く。



(B)

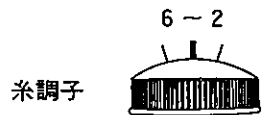
布の裏に、模様の内側にはみ出さないように、糊をつけ、チュールをはりつける。

布の表から模様のみちをかがり、かかった糸と布の下のチュールを切らないように、布を切り抜く。

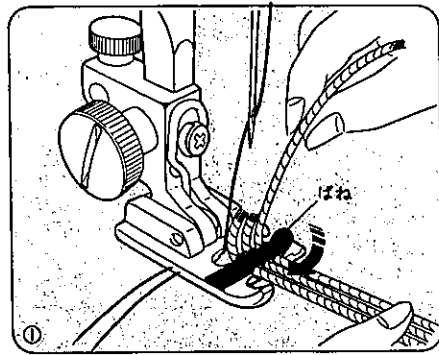
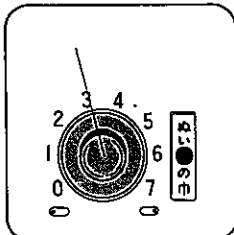
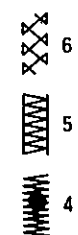


☆1本ひものとき

《セットの仕方》

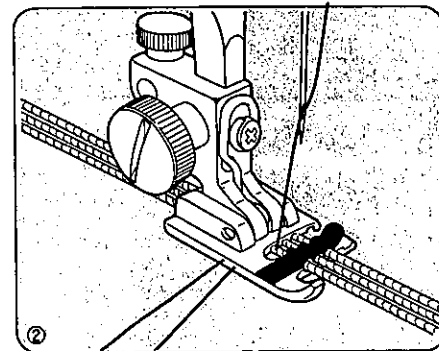


Hひもつけ押え

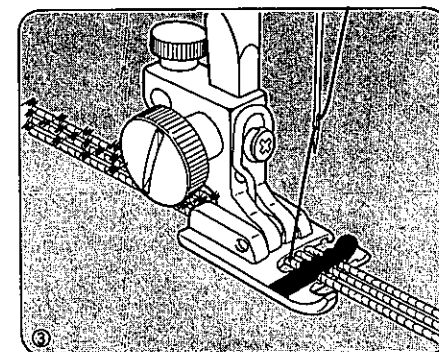


《縫い方》

①ひもを、ひもつけ押えのばねの下にくぐらせ、みぞに通す。



②向こう側に10cmくらい引き出し、押えのスリットから、押えの下にくぐらせ、押え裏のみぞに入れる。

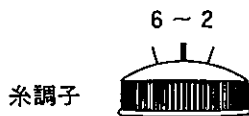


③縫い目がひもにまたがるように縫う。

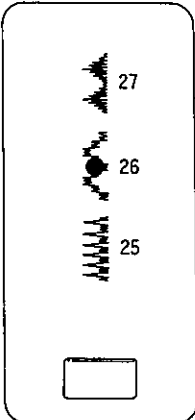
※1本ひものときは、押えの中央のみぞを使います。

☆3本ひものとき

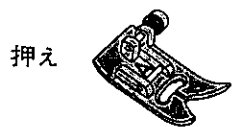
《セットの仕方》



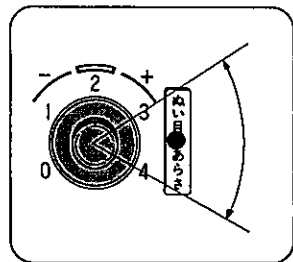
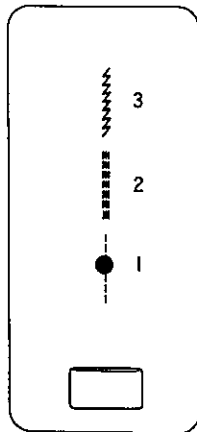
Hひもつけ押え



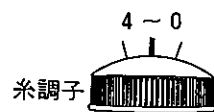
《セットのし方》



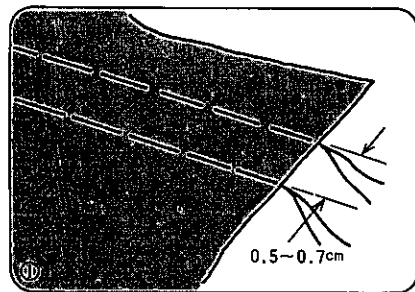
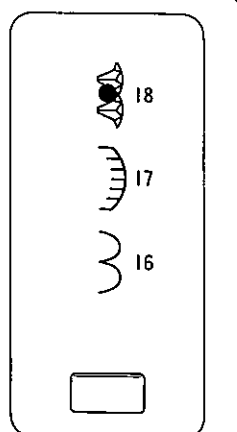
A 基本押え



《セットのし方》

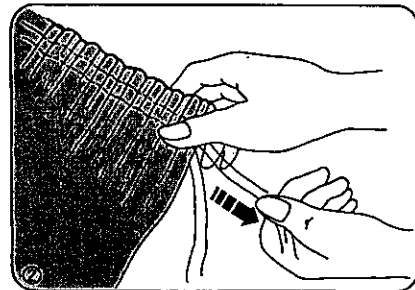


A 基本押え

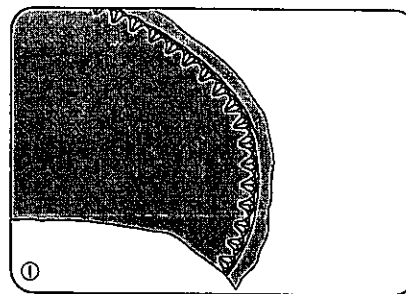


《縫い方》

① 0.5~0.7cmの間かくて、2本平行に縫う。

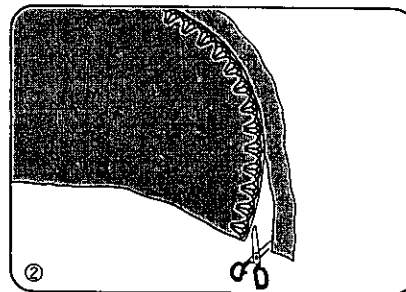


② 布を軽くつまみ、上糸はそのままにして、下糸を両側から引き、平均にひだをよせる。



《縫い方》

① 布の表から、布端を1cmくらい残して縫う。



② 糸を切らないように、布端を切り落とす。

〈セットの仕方〉

6-3

糸調子



押え

または



A 基本押え B 透明

ボタンホール押え



21



20



19



低速



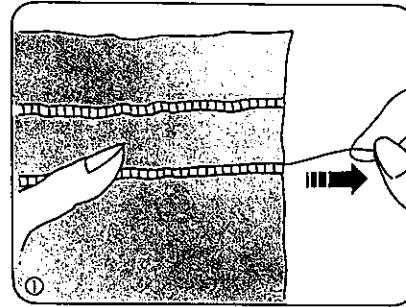
押え圧ダイヤル



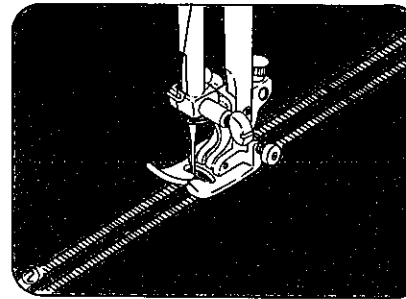
※模様は②④が使えます。

〈縫い方〉

① ドロンワークする部分の両わきの織り糸を、1~2本抜きとる。

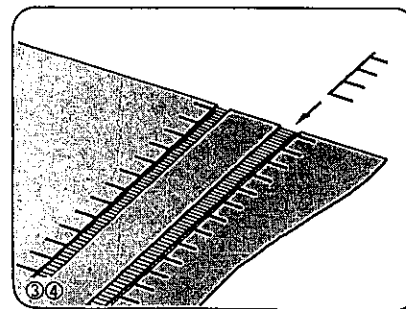


② 左側の織り糸を、抜いた上を縫う。



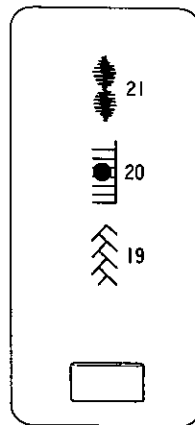
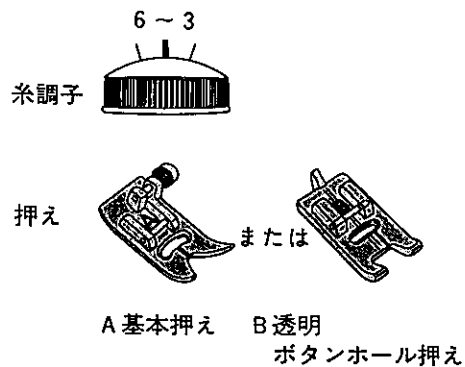
③ 反転記憶キーを押して、右側を縫う。

※模様②のときは、反転記憶キーは使えません。



④ ドロンワークする部分の織り糸全部を、抜きとる。

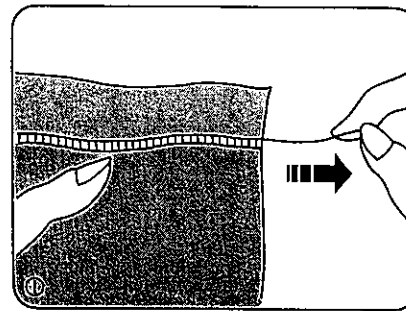
〈セットの仕方〉



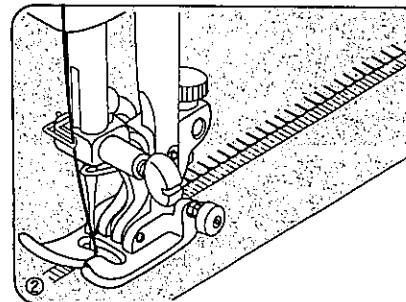
※模様は②⑩が使えます。

〈縫い方〉

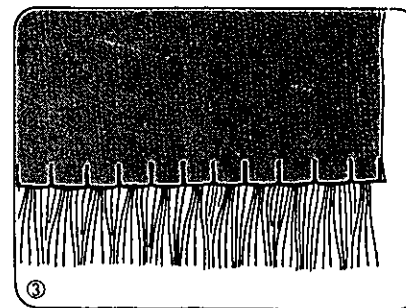
①フリンジの裏になる部分の織り糸を、1~2本抜きとる。

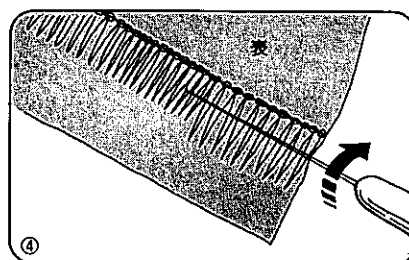
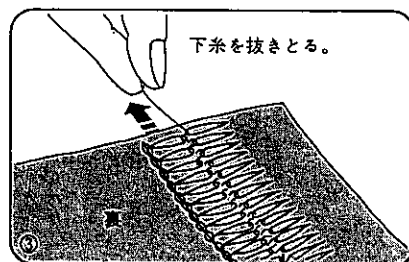
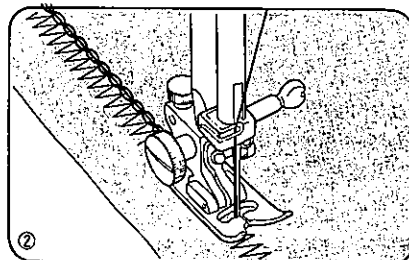
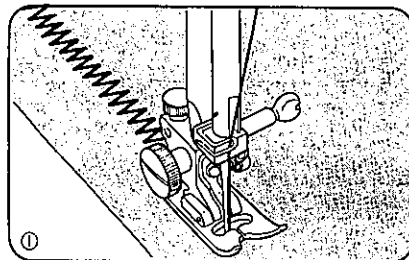
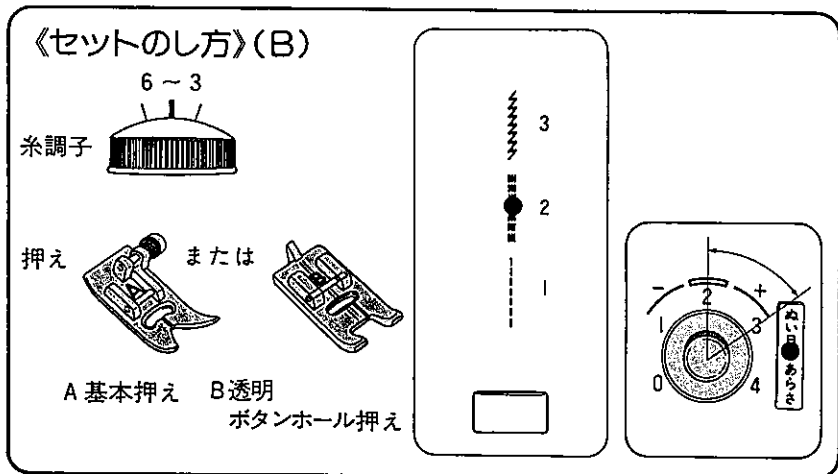
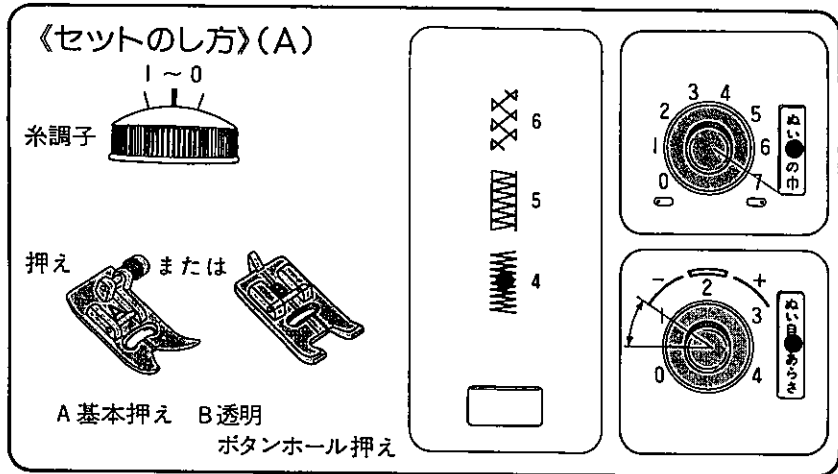


②織り糸を抜いた上を、縫う。



③フリンジする部分の織り糸全部を抜き、ふさを作る。





《縫い方》

①(A)にセットして縫う。

※上糸が、布の裏にはほぼ全部出るように、上糸調子を弱くしてください。

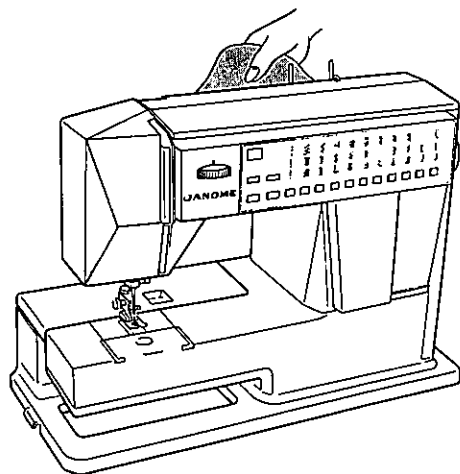
②(B)にセットして、①の縫い目の右端を、三重縫いする。

③①で縫った下糸を、引いて抜きとる。

④太い針か、目ほどの背で、上糸を布の表に引きあげ、アイロンで仕あげる。

使用後は、ゆきとどいた手入れをして、ミシンをいつも、軽快に役立ててください。万一縫い調子がおもわしくない場合は、54～56ページを参照して調整してください。

※このミシンは、注油の必要がありません。

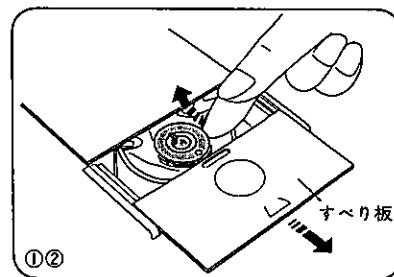


ほこりや油などの汚れは、水をつけずに、乾いたやわらかい布でふきとる。ポータブルケースは、中性洗剤などで軽くふきとる。

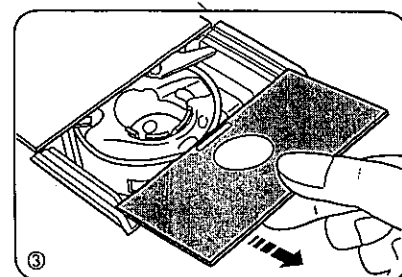
※シンナー、ベンジン、みがき粉は、絶対使用しないでください。

※手入れをするときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

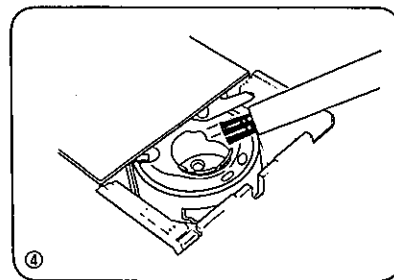
糸くずや、ほこりがつくと、縫い目じわや下糸切れなどの原因となり、また、故障の原因ともなりますので、使用の前後に確かめて、ついていたら、とり除いてください。針板をはずさないで、かまを掃除するときは、つぎの方法で行ないます。



- ①電源スイッチを切り、電源プラグを抜く。
- ②すべり板をあげ、ボビンをとり出す。

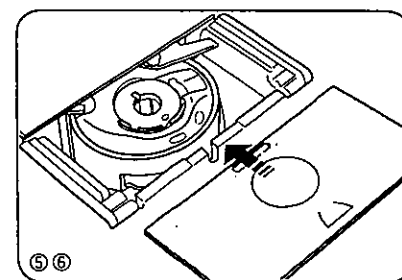


- ③すべり板を、手前に強く引いてははずす。



- ④ごみを、ブラシで掃除する。


※ブラシで掃除しにくい乾いたゴミは、電気掃除機などで、吸いとってください。



- ⑤ボビンを入れる。
- ⑥すべり板は、前側の両端を、みぞに合わせ、押しをつける。

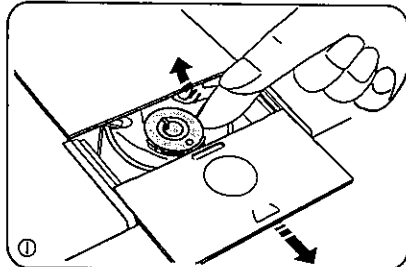
針板をはずして、かまの掃除をするときは、送り歯の掃除をしてください。

《準備》

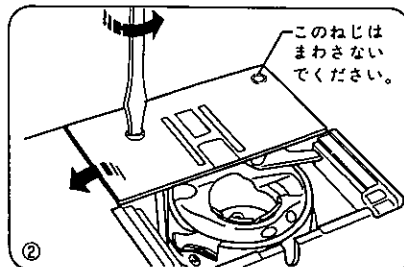
- ①模様  を選ぶ。
- ②電源スイッチを切り、プラグを抜く。
- ③針と押えホルダーを、はずす。
- ④手入れを終えたら、針と押えホルダーをつける。

※ここに説明されている個所以外は、分解しないでください。

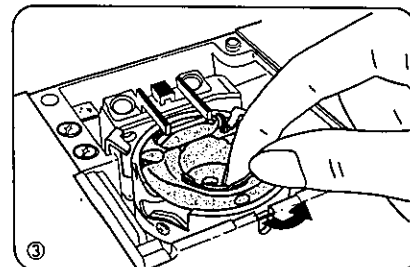
《かまの分解》



①すべり板をはずし、ボビンをとり出す。

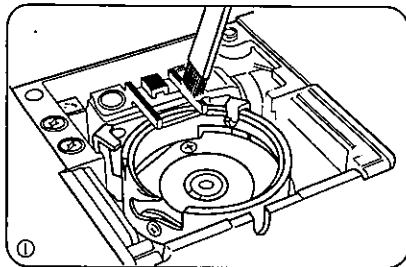


②針板の左のしめねじをはずし、針板をはずす。

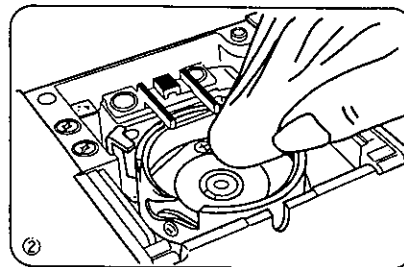


③内がまの手前を、上に引きながらはずす。

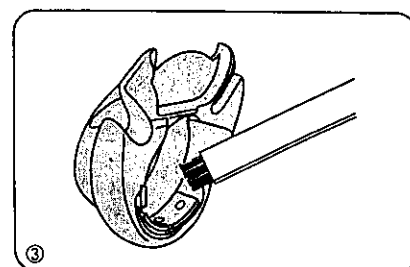
《送り歯とかまの掃除》



①送り歯のごみを、ブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除する。

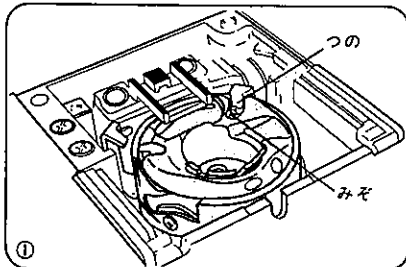


②外がまの中央部を、布切れて軽くふきとる。

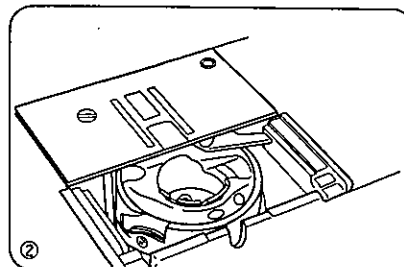


③内がまを、ブラシで掃除し、布切れて軽くふきとる。

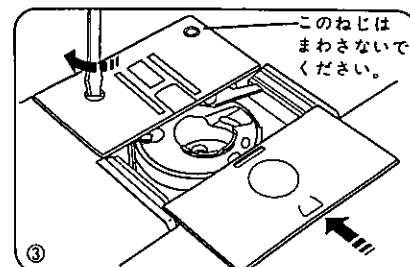
《かまの組み立て》



①外がまのつのに、内がまのみぞを入れて、内がまを外がまにつける。



②針板をつける。



③送り歯と針板の窓とのすきまが、均一になるように針板を左右に動かして、針板しめねじをしめ、すべり板は、前側の両端をみぞに合わせ、押してつける。

調子が悪い場合	その原因	直し方
音が高い、 回転が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ①かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 ②送り歯に、ごみがたまっている。 	52、53ページ参照 53 ページ参照
上糸が切れる。	<ul style="list-style-type: none"> ①上糸の掛け方が、まちがっていたり、糸が、必要以外のところからみついている。 ②上糸調子が強すぎる。 ③針が、まちがっていたり、針先が、つぶれている。 ④針のつけ方が、まちがっている。 ⑤縫い終わったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥針にくらべて、糸が太すぎるか、細すぎる。 	12 ページ参照 15 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照 17 ページ参照 9 ページ参照
下糸が切れる。	<ul style="list-style-type: none"> ①内がまに下糸の通し方がまちがっている。 ②内がまの中に、ゴミがたまっている。 	11 ページ参照 52、53ページ参照
針が折れる。	<ul style="list-style-type: none"> ①針のつけ方が、まちがっている。 ②針が、まちがっていたり、針先が、つぶれている。 ③針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 ④上糸調子が、特に強すぎる。 ⑤縫い終わったとき、布を向こう側に引いていない。 ⑥布にくらべて、針が細すぎる。 ⑦2本針使用の場合、「2本針キー」を押していない。 ⑧布に針がささっているときに、模様選択キーを押したり、電源を操作した。 	9 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照 15 ページ参照 17 ページ参照 9 ページ参照 40 ページ参照 針をあげてから操作する。

調子が悪い場合	その原因	直し方
縫い目がとぶ	①針のつけ方が、まちがっている。 ②針が、まがっていたり、針先が、つぶれている。 ③布に対して、針と糸が、合っていない。 ④伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針を使っていない。 ⑤上糸の掛け方が、まちがっている。 ⑥押え圧が弱い。 ⑦しつけのとき、布をぴんと張っていない。	9 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照 12 ページ参照 5 ページ参照 35 ページ参照
縫い目がしわになる。	①上糸調子が、強すぎる。 ②上糸下糸の掛け方が、まちがっていたり、糸が、必要以外の部分にからみついている。 ③布にくらべて、針が太すぎる。 ④布にくらべて、縫い目があらずすぎる。 ⑤押え圧が、合っていない。 ※特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	15 ページ参照 12 ページ参照 9 ページ参照 縫い目を細かくする。 5 ページ参照
縫い目に輪ができる。	①上糸調子が、弱すぎる。 ②糸にくらべて、針が太すぎるか、細すぎる。	15 ページ参照 9 ページ参照
布送りがうまくいかない。	①送り歯に、糸くずがたまっている。 ②押え圧が弱い。 ③縫い目が、細かすぎる。 ④縫いはじめで、布が送られない。 ⑤送り歯が、あがっていない。	53 ページ参照 5 ページ参照 縫い目をあらくする。 18 ページ参照 「送りなしキー」を押して、赤いシグナルを消す。
ミシンがまわらない。	①コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 ②かまの部分に、糸が巻きこまれている。	7 ページ参照 52、53ページ参照
コントローラーを踏んだとき2-3秒して電気が切れる。	①かまに、ごみが入っている。	52、53ページ参照

調子が悪い場合	その原因	直し方
直線専用の針穴にならない。	①天びんが、さがっている。	16 ページ参照
模様縫いができない。	①ミシンをまわしながら直線縫い 1か、三重縫い 2から、他の模様選択キーを押している。 ②押え圧ダイヤルが「しつけ」にセットしてある。	ミシンを止めてから模様選択キーを押す。 34 ページ参照
模様がくずれる。	①送り調節ねじが合っていない。 ②布に対して、送りが合っていない。 ③制御回路にずれが生じた。	37 ページ参照 37 ページ参照 電源スイッチを切り、ふたたび入れて、模様をセットする。
ボタン穴かがりがうまくいかない。	①布に対して、縫い目のあらかさが合っていない。 ②左と右の縫い目のあらかさが、合っていない。 ③伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 ④縫うところの布の厚みに、差がある。 ⑤布に、無理な力が加わっている。	27 ページ参照 27 ページ参照 25 ページ参照 24、25ページ参照 24 ページ参照

以上の点検・調整を行なっても、なおミシンの調子が悪いときは……ジャノメミシン 直営支店へどうぞ！

※ジャノメミシンでは、全国550の直営支店で万全のアフターサービスをいたしております。この本にかかっている方法で調整できないときは、どうぞ遠慮なく、近くの支店へご連絡ください。

※お問合わせの際は、この本をお読みにになりながらお電話くださると、係員も故障の原因や個所がわかって便利です。

※お電話いただければ調整員がおうかがいしますから、必要以上に分解などなさらなくてください。



ジャノメミシン

蛇の目ミシン工業株式会社
東京都中央区京橋3-1-1 TEL(3277)2200